

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 30 年度 第 6 回理事会

開催日時 平成 31 年 1 月 15 日(火)
15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所 東京大学理学部 1 号館 336 号室
(東京都文京区本郷 7-3-1)

平成 30 年度第 6 回理事会議事次第

1. 開 会

議事内容

2. 審 議 事 項

- 第 1 号議案 新入会員承認の件
- 第 2 号議案 寄附について
- 第 3 号議案 2020 年 JpGU 大会準備のためのタスクフォースの設置について
- 第 4 号議案 2016 年-2018 年 JpGU 大会の実施状況についての報告文
- 第 5 号議案 所属機関払いによる支払い方法の改廃の検討について
- 第 6 号議案 2019 年度の予算
- 第 7 号議案 教育検討委員会教員養成等検討小委員会の廃止
- 第 8 号議案 フェロー審査委員長承認の件
- 第 9 号議案 西田賞審査委員長承認の件
- 第 10 号議案 男女共同参画学協会連絡会からの要望書および声明文の修正案
- 第 11 号議案 その他

3. 報 告 事 項

- 1. 川幡穂高代表理事職務報告
- 2. ウォリス・サイモン理事(グローバル戦略担当)職務報告
- 3. 田近英一理事(広報普及担当)職務報告
- 4. 西 弘嗣理事(総務担当)職務報告
- 5. 大会運営委員会関連報告
- 6. 危機管理検討 WG 活動報告
- 7. 教育検討委員会報告事項
- 8. 顕彰委員会活動報告
- 9. ジャーナル編集委員会活動報告
- 10. その他

4. 閉 会

(資 料)

前回議事録

平成 30 年度第 5 回理事会議事録	P. 1-8
-------------------------------	--------

審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件	P. 9-10
第 2 号議案 寄附について	P. 27-32
第 3 号議案 2020 年 JpGU 大会準備のためのタスクフォースの設置について	P. 11-13
第 4 号議案 2016 年-2018 年 JpGU 大会の実施状況についての報告文	P. 14-17
第 5 号議案 所属機関払いによる支払い方法の改廃の検討について	P. 18-23
第 6 号議案 2019 年度の予算	P. 24-26
2018 年度寄附金受入明細	P. 27-32
第 7 号議案 教育検討委員会教員養成等検討小委員会の廃止	P. 33-36
第 8 号議案 フェロー審査委員長承認の件	資料なし
第 9 号議案 西田賞審査委員長承認の件	資料なし
第 10 号議案 男女共同参画学協会連絡会からの要望書および声明文の修正案	P. 37-43
第 11 号議案 その他	

報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告	資料なし
2. ウォリス・サイモン理事（グローバル戦略担当）職務報告	
活動報告	P. 44-45
AGU Fall Meeting2018 におけるブース出展および JpGU 参加報告書	P. 46-50
オープンアクセスの動向に関する報告	P. 51-53
3. 田近英一理事（広報普及担当）職務報告	資料なし
4. 西 弘嗣理事（総務担当）職務報告	P. 54
5. 大会運営委員会関連報告	P. 55-62
プログラム関連日程表	P. 55
メールニュース 1 月号抜粋	P. 56-59
ソーシャルメディア（SNS）を利用したポスター発表の募集	P. 60
学割承認締め切りについて	P. 61
法律の改正等に伴う運営の変更について	P. 62
6. 危機管理検討 WG 活動報告	P. 63
7. 教育検討委員会報告事項	P. 33-36
8. 顕彰委員会活動報告	P. 64
9. ジャーナル編集委員会活動報告	P. 65-66
10. その他 情報システム委員会活動報告	P. 67

その他

規則	別添
--------------	----

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 30 年度第 5 回理事会議事録

1. 開催日時 平成 30 年 12 月 4 日（火）
午後 15 時 00 分から午後 19 時 00 分

2. 開催場所 東京大学理学部 1 号館 710 号室
（東京都文京区本郷 7-3-1）

3. 出席者 理事数 20 名
出席理事 19 名 （定足数 11 名 会議成立）

4. 議長 理事 川幡 穂高

5. 出席役員

理事 阿部 なつ江
理事 市川 洋
理事 井出 哲
理事 ウォリス サイモン
理事 小口 千明
理事 川幡 穂高
理事 河宮 未知生
理事 木村 学
理事 倉本 圭（Zoom 出席）
理事 中村昭子（Zoom 出席）
理事 成瀬 元（Zoom 出席）
理事 田近 英一
理事 中村 正人
理事 西 弘嗣
理事 浜野 洋三
理事 日比谷 紀之
理事 古村 孝志
理事 道林 克禎
理事 村山 泰啓
監事 加藤 照之
監事 鈴木 善和

6. 出席オブザーバー

宇宙惑星科学セクションプレジデント 高橋 幸弘
大気水圏科学セクションプレジデント 蒲生 俊敬
大気水圏科学セクションバイスプレジデント 谷口 真人
固体地球科学セクションバイスプレジデント 田中 聡
地球生命科学セクションプレジデント 遠藤 一佳
水文・水資源学会 飯田真一（寶 馨 学協会長会議議長 代理）

午後 15 時 00 分、定数に達したので川幡穂高会長が開会を宣した。インターネット電話 ZOOM を利用し、遠隔地から参加する倉本理事、中村昭子理事、成瀬理事が審議に参加できることを確認した。

7. 審議事項

第 1 号議案 新入会員承認の件

定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を審議した。これを承認した。

第 2 号議案 委員会委員承認の件

環境災害対応委員会、教育検討委員会、ジャーナル編集委員会の各委員会の新規委員を承認した。各委員会の委員候補を示し、委員会ごとに審議した。これを承認した。

第 3 号議案 2019 年度の予算

11 月 15 日、2019 年度予算に関して財務委員会と各委員会およびセクションとの間でヒアリングを行った。その結果に基づいて財務委員会が設定した 2019 年度予算方針について説明があり、理事会審議項目としていた以下の件を審議した。

情報システム委員会の海外招聘費について審議し、200,000 円を招聘費として認めることを承認した。AGU への研究者の参加旅費については原則的に削減とするが、連合の用務のみで出張するなどについては、要請があれば財務委員会と個別に相談することとなった。

プレジデンシャルレセプションの予算について審議した。海外からの招待分の予算を確保し、2019 年は一旦規模を縮小して開催し、参加者他のコメントをいただくこととなった。2020 年については、寄付制も含めて会費制での開催も含めて開催方法を検討することとな

った。

新聞プログラムの継続について審議した。アプリのダウンロード数が増えているものの、全参加者が利用しているわけではない等の現状を考慮し、2019 年大会では新聞プログラムの予算は承認するが、ごみの削減、紙資源の節約も大事なので、将来的には新聞プログラムはなるべく早く廃止する方向で検討する。さらに、本方針をコミュニティに周知する努力を徹底することとなった。

中村財務委員長から、ビール配布をソフトドリンクに置き換えるとの提案があり、これについて審議した。賛否両方の意見があったが、2019 年大会ではビール配布を一度休止した。

全体として 2019 年の大会中にアンケート調査などをきちんと行い、参加者の意向を汲み取る努力をし、今後に反映することとした。

第 4 号議案 「JpGU2016-2018 大会の開催状況と財政状況の報告」について

2016 年大会での参加登録料改訂に伴い、2018 年大会が終了した時点で 3 年間の財政状況を参加者に示し、またそれに基づいて 2019 年以降の大会の運営方針についても示すとしていた。これに従い、2018 年度内に、実際の財政状況を整理し運営方針を定めた後に会員に向けて示すことが提案された。これを承認した。

JpGU では、2017 年の AGU とのジョイントミーティングの開催に向け、(1)連合大会の国際化 (2)電子的サービスの更新・拡充 (3)連合大会会場の拡大 (4)事務局の増強、の実現のために必要となる経費増を、2016 年から 2018 年の 3 ヶ年で補うことを目指して、2016 年からの参加費の価格改定（値上げ）を行った。2018 年大会が終了した時点で、値上げ前の 2015 年と値上げ後の 3 年間（2016 年-2018 年）の登録参加者数、発表論文数、大会収入、大会支出等の平均値を比較した。2015 年に比して 3 年間平均値は、参加者数が 850 名、論文数が約 1000 件増加しており、参加費の値上げが、参加者に広く受け入れられたことを示す。また各参加学会等の協力等も貢献している。3 ヶ年の平均値では、大会収入の増加は約 5000 万円、大会開催に必要な支出増は約 4000 万円であり、大会の収入－支出＝差益は、3 年間各 1000 万円の増加となっている。この差益から大会運営のために必要な管理費、事務局の増強分の費用を引くと、2015 年と 2016 年からの 3 年間平均値はほぼ等しくなっている。この結果は値上げ前の 2015 年 9 月の時点での参加者、会員の皆様へのお約束通り、値上げによる収入増は、ほぼ全て当初目的の達成のために使用され、値上げが受益者負担の原則を満たしていることを示す。

第 5 号議案 研究力強化に向けた女性活躍指標の整備に関する要望（案）

男女共同参画学協会連絡会から、「研究力強化に向けた女性活躍指標の整備に関する要望」の案が示され、連絡会参加学協会からの意見が求められている。審議の結果、連合としてはこの要望案を指示する旨、承認された。なお、用語の日本語訳が必ずしも真意を伝えていないおそれもあるので、精緻な翻訳について、連絡会にもコメントとして通知することとなっ

た。

第 6 号議案 大学等 高等教育機関の入学試験に対する声明文について（案）

男女共同参画学協会連絡会から、「大学等高等教育機関の入学試験に対する声明」の案が示され、連絡会参加学協会からの意見が求められている。検討し、連合としてはこの声明案を支持する旨、承認された。

第 7 号議案 人材活用の見える化の検討

2020 年に向け、連合の会員システムを用いた新しいキャリアサポートの取り組みの案が示された。本件は若手や学生だけでなく、リタイア後の人材、および、育休などを理由に時短勤務を希望する人材などの活用も視野に入れる。また、英語での情報掲載にも重点を置く。

予算により実行の範囲も変わってくるので、これについては今後の検討課題とする。また、連合がすでに持っている公募情報システムの拡充も一案として検討する。情報掲載をオープンにするか会員限定にするかについても、情報の公開の安全性や個人情報のやり取りの必要性なども考慮して検討する。いずれにしても、本件の検討を開始することを承認した。

第 8 号議案 大会危機管理について

道林理事より緊急動議があり、大会危機管理について、災害等により開催ができなかった場合の対応について審議した。特に、2019 年の連合大会に向けての情報提供の時点で原則を示す必要があるので、「原則として投稿料参加登録費は返金しない。」という文言を投稿受付開始時にホームページに掲載することを承認した。但し、起こり得る状況はさまざまに予想されるので、返金可能な場合も含めて、さらに詳細に検討することとなった。

第 9 号議案 国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦について

西理事より緊急動議があり、国立大学教育研究評価委員会専門委員及び機関別認証評価委員会専門委員の候補者の推薦について連合からの推薦について審議した。会長、副会長、総務理事で検討することとして推薦を検討することを承認した。

7. 報告事項

1. 川幡穂高代表理事職務報告

川幡会長より、1 月 15 日、3 月 5 日の理事会開催予定と、5 月 28 日の総会、学協会長会議の予定が示された。

2. ウォリス理事（グローバル戦略担当）職務報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。

- ・セッションの英語化を更に推進するため、議論を続けている。特に 2020 年大会については AGU との Joint Meeting で、セッションからも積極的に英語化を推進すべく努力するという意向が表明されたので、グローバル戦略委員会としてもこの方向に沿って、宣伝を拡大していくこととなった。本件について、理事会としても賛成する旨が表され、2020 年の大会については、英語化を強く推奨することとなった。

- ・EGU との MOU を従来と同様の内容で更新する方向で、AGU FALL MEETING で詳細に打ち合わせをする。

- ・2020 年大会での海外からの招聘に関して、その時期に他の大学、研究所などで招聘される研究者がいれば、その招聘元に依頼し、連合大会にて発表を呼び掛ける等の案が紹介された。

- ・台湾や韓国等のアジアの国・地域とも国際連携を強める

- ・第 7 号議案ですでに審議したが、人材活用の見える化についても議論した。

3. 田近英一理事（広報普及担当）職務報告

広報普及委員会の活動報告があった。

- ・パブリックセッション採択の基準を今回刷新し、明確化しパブリックセッションを採択した。

- ・JGL 11 月号（Vol14-4）を発行した。JGL についてはこれまで広く配布していたが、今後は個人会員のみに配布することとする。またプライバシーポリシー改訂にともない、プライバシーポリシーに同意していない会員には JGL を送付できない状況にあることが説明され、JGL に同封した説明書の紹介があった。出席者にも、周囲への告知の協力が依頼された。

- ・12 月 27 日に東京大学理学部 1 号館小柴ホールで、高校生のための冬休み講座 2018 を開催予定である。

4. 古村理事職務報告

11 月 30 日、「新公益法人制度 10 年を迎えてのヒアリング」に出席した旨報告があった。事業や税額控除団体申請の困難さ、煩雑さについてなど意見を伝えた旨、報告があった。

5. 西 弘嗣理事（総務担当）職務報告

- ・連合が承認した協賛、後援について報告があった。

- ・事業計画・事業報告の作成開始するにあたって、委員会・セッションに協力の依頼があった。

- ・事務局職員の就業規則設置にともない、フレックス制に移行している。コアタイム以外は各職員が不在の場合もある旨説明があった。

6. 大会運営委員会活動報告（浜野理事）

2019 年大会準備状況について報告があった。セッション提案・採択状況やスケジュールについて報告があった。また展示企画出展者の募集と勧誘について協力の依頼があった。

7. 危機管理検討 WG 活動報告（道林理事）

危機管理検討ワーキンググループの活動について報告があった。10 月 25 日に会合を開き、道林克禎委員を主査に選任した。現在、危機管理対応マニュアルの草案を作成中である。

ワーキンググループとしては、支払われた投稿料参加登録費は返金しないこと、また大会が開催できなかった場合でも発表されたとみなすことで対応することを提案した。理事会として、これを了承した。

8. 教育検討委員会活動報告（市川理事）

教育検討委員会の活動報告があった。

- ・2019 年国際地学オリンピック、ならびに 2019 年国際地理オリンピックの参加者募集状況などの報告があった。

- ・教員免許状更新講習の募集状況の報告があった。

- ・10 月 13 日から 19 日まで開催されたアースサイエンスウィークジャパンの開催報告があった。

- ・10 月 26 日の教育検討委員会幹事会の開催報告があった。ホームページの整備を予定していることや教員等養成小委員会の活動の見直しなどの議論をした。

- ・11 月 20 日の理数系学会教育問題連絡会の開催報告があった。

- ・地球科学普及講演会「地球をぶらり」の開催報告があった。

- ・木村理事より学術会議の人材育成分科会

9. ダイバーシティ推進委員会（小口理事）

ダイバーシティ推進委員会の活動報告があった。

- ・委員会内の役割分担について報告があった。

- ・男女共同参画学協会についての報告があった。2019 年度分担金額が 20,000 円に確定した。

- ・「女子中高生夏の学校」への参加報告があった。

10. ジャーナル編集委員会活動報告（倉本理事）

ジャーナル編集委員会の活動報告があった。PEPS と EPS が共同で科研費を申請したことについて報告があった。

11. 固体地球科学セッション報告（田中バイスプレジデント）

リソスフェア・マントルのダイナミクスに関する第2回アジア・太平洋域ワークショップの活動報告があった。SAKIGAKE-JpGU Hard-rock drilling Focus Group kick-off workshopの活動報告があった。これら2件には固体地球科学セッションから旅費の支援を行っている。

新たなフォーカスグループである表層変動熱年代学(Thermochronology on earth's surface processes)を設置したことについて報告があった。

12. その他

環境災害対応委員会から活動報告があった。パブリックセッション、ユニオンセッションの提案の報告、「ぼうさいこくたい2018」への参加報告があった。

情報システム委員会から活動報告があった。オープンサイエンスに関わる議論を行うにあたり、「方向性」（原則）を設定したいため、意見を募集する旨説明があった。

顕彰委員会から活動報告があった。本年度のフェロー、西田賞の募集について周知の依頼があった。また、2019年大会時の定期大会参加促進事業（旅費支援）の予定と準備状況についても説明があった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（午後19時00分）以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成30年12月4日

公益社団法人日本地球惑星科学連合 第5回理事会

出席理事	川幡	穂高	印
------	----	----	---

出席理事	阿部	なつ江	印
------	----	-----	---

出席理事	市川	洋	印
------	----	---	---

出席理事	井出	哲	印
------	----	---	---

出席理事	ウォリス	サイモン	印
------	------	------	---

出席理事	小口	千明	印
出席理事	河宮	未知生	印
出席理事	木村	学	印
出席理事	倉本	圭	印
出席理事	田近	英一	印
出席理事	中村	昭子	印
出席理事	中村	正人	印
出席理事	成瀬	元	印
出席理事	西	弘嗣	印
出席理事	浜野	洋三	印
出席理事	日比谷	紀之	印
出席理事	道林	克禎	印
出席理事	古村	孝志	印
出席理事	村山	泰啓	印
出席監事	加藤	照之	印
出席監事	鈴木	善和	印

入会会員

個人情報_の為非公開とする

平成30年度会員数推移

正会員							准会員						大会ID				AGU会員			
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数
3月末現在						8184						956				518				1572
4月	140	77	1		2	8398	71	77			6	944	82			600	6	1		1577
5月	216	60	1		1	8672	263	60	1		9	1137	530		4	1126	19			1596
6月	0			789	1	7882	1					1138	0			1126	2			1598
7月	4		5			7881	0				1	1137	0			1126	5			1603
8月	2	-1	2		1	7879	1	-1				1139			1120	6	20			1623
9月	8	4	6			7885	2	4	1		1	1135	8			14	11	2		1632
10月	29		4		1	7909	2		1			1136	21		2	33	9			1641
11月	6	3	5			7913		3	2			1131	5		1	37	16			1657
12月	3		2			7914	2		1			1132	8		5	40	28			1685
1月						7914						1132				40				1685
2月						7914						1132				40				1685
3月						7914						1132				40				1685
	408	143	26	789	6		342	143	6	0	17		654	0	1132		116	3	0	

1名、正会員から准会員へ変更

変更
准会員から正会員へ
正会員から准会員へ

2018/12/31 正会員
7914 名

准会員
1132 名

大会ID
40 名

AGU会員
1685 名

	団体会員			賛助会員		
	入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末現在			49			7
4月			49			7
5月			49			7
6月			49			7
7月			49			7
8月	1		50			7
9月			50			7
10月			50			7
11月			50			7
12月			50			7
1月						
2月						
3月						
	1	0	50	0	0	7

全ID	
3月末現在	11,230 名
4月	11,519 名
5月	12,531 名
6月	11,744 名
7月	11,747 名
8月	10,647 名
9月	10,666 名
10月	10,719 名
11月	10,732 名
12月	10,771 名
1月	名
2月	名
3月	名

2020 年大会“国内準備タスクフォース”（仮称）

JpGU Task Force for JpGU-AGU Joint Meeting 2020

2020 年の JpGU-AGU Joint Meeting については、理事会で開催が決定され、既に開催のための準備活動が始まり、大会開催の協定も 2018 年 5 月に結ばれています。2017 年大会の経験を生かし、2020 年大会をさらなる成功に導くためには、AGU との交渉と並行して、総務、財務が関わる予算編成と内閣府対応、情報システムと大会運営が関わるプログラム登録・編成システムの構築、プログラム、大会運営に関わる大会セッション編成、大会会場、設備の選定、等を緊密な連携のもとに進めていくことが必須です。このために 2020 年大会までの 2 年間の時限措置として、2020 年大会を推進する連合全体と連携する組織の設置 を提案します。

大会運営委員会委員長

構成(案):

未広 潔 (TF ヘッド: 国際プログラムコーディネータ、グローバル戦略委員会、事務局)

堀 和明 (名古屋大学) 2019 年プログラム委員会委員長

稲垣 史生 (JAMSTEC) 2020 年プログラム委員会委員長

未定 大会運営委員会

未定 情報システム委員会委員

未定 広報普及委員会委員

未定 グローバル戦略委員会委員

TF アドバイソリー:

Simon Wallis: グローバル戦略委員長

中村 正人: 財務委員長

西 弘嗣: 総務委員長

浜野 洋三: 大会運営委員会委員長

参考: 2017 年大会時の担当委員会

プログラム編成: 共同プログラム委員会

JpGU-AGU Great Debate: 共同プログラム委員会

Keynote Speeches: 広報普及委員会/ 大会運営委員会

Presidential Reception: 大会運営委員会

International Mixer Luncheon: 大会運営委員会

Student Travel Support: 顕彰委員会 (国内) + AGU (国際)

Outstanding Student Presentation Award: 顕彰委員会

Seminars : 大会運営委員会

Hot Topics : 大会運営委員会

Pop-up Talks 'Oshaberi' Bar : 大会運営委員会

Career Booth : Com for Diversity Management & Talent Pool

NASA-JAXA Hyperwall lectures : 広報普及委員会

Highlights (presentations) : 広報普及委員会

VISA Supporting Documents and Letters: 事務局

AGU Task Force for 2020 Meeting

Members:

: Chief Operating Officer
Lauren Parr : Director of Meetings
: M.P.A Manager, Development
: Science Director
: Assistant Director, Executive Ops and Awards Administration

: AGU Fall Meeting 2020 Program Chair
William F McDonough: JpGU-AGU Joint Meeting 2020 AGU Program Chair
Karine Blaufuss : Business Intelligence and AMS Manager

日本地球惑星科学連合 2016-2018 年大会について

日本地球惑星科学連合会長 川幡穂高

日本地球惑星科学連合(以下, “連合”と略す)大会は、その前身である: 地球惑星科学関連学会合同大会の最初の開催から 2019 年大会で 30 回目となります。この間、連合は毎年連合大会を開催し、地球惑星科学の様々な分野に携わる多くの方々の成果発表や交流の機会を提供してきました。連合では、地球惑星科学コミュニティの継続的な発展にさらに貢献するため、また連合大会に参加される皆様へのサービスの向上を目指し、2016 年から 3 年間の計画で新たな改革を実施し、この新しい計画に向けて、大会参加費の改定(値上げ)を実施させていただきました。2015 年 9 月のメールニュースに説明していますように、この改革の骨子は、[1] 連合大会の国際化、[2] 電子的サービスの更新・拡充 [3] 連合大会会場の拡大と、これらのサービスを安定的に実現するために連合の運営を支える [4] 事務局の事務処理能力増強の 4 点となっています。2018 年大会が終わり、2019 年大会の準備が進んでいる現段階で、2016 年から 2018 年にかけて行ってきた改革の成果を大会参加者の皆様にご説明し、その評価に基づいて、皆様の声を反映した新たな連合を目指して邁進することとしています。

この 3 年間の最初の大会である 2016 年大会は、幕張メッセ国際会議場全館と隣の東京ベイ幕張ホールの会議施設に加えて、初めて国際展示場の半分をポスターセッション会場に使用して、5 月 22 日(日)~ 26 日(木)の 5 日間開催され、かつてない大盛況の内に終えることができました。この大会では永年使ってきた会員管理システム、投稿-プログラム編成-公開システムを、全て新システムに切り替える等、2017 年度 JpGU-AGU ジョイントミーティングとその後の JpGU の一層の進展に向けて、様々な変更を実施しました。今大会のセッション数は 194 件(内国際セッションは過去最多の 63 件)、発表論文数は前年の 2015 年より 500 件以上多い 4,515 件(口頭発表 2,435 件、ポスター 2,080 件)でした。AGU とのジョイントセッションとして、宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学の全てのセクションで提案された 49 セッションに対して、数多くの興味深い論文が国内外から集まったためです。ポスター会場を国際展示場に移すことで、従来の倍の面積を使うことができ、ポスター/口頭発表比率を増やせたことで、参加者の皆様にも満足度の高い大会が実現出来ました。大会参加者数については、会員参加者が 5,487 名、アウトリーチ活動、展示出展等を含めた参加者総数は 7,240 名でした。会員参加者のおよそ 3 分の 1(1,755 名)が大学院生及び学部学生であり、さらに日曜日に実施するアウトリーチ活動には高校生・中学生がさらに 500 人程度来場しました。このように連合大会に若者が多く参加することは、地球惑星科学の将来の発展に向けて希望を与えるものです。シニア会員(70 歳以上)の大会への参加者も年々増加

し、2016 年は 150 名近くになっていることも付け加えさせていただきます。全ての年代層に地球惑星科学の魅力を実感していただくことが、JpGU 大会開催の一つの意義と考えています。さらに、JpGU 大会は国際化への取り組みにより、2016 年 大会には米国、中国、ロシアを始め 33 カ国 から 363 名の参加者がありました。

2017 年大会は、米国地球物理学連合 (AGU) との共同開催 (JpGU-AGU Joint Meeting 2017) として実施されました。会場は幕張メッセ国際会議場及び国際展示場 (第 7 ホール)、東京 ベイ幕張ホール会議場を使って、会期は 5 月 20 日 (土) から 5 月 25 日 (木) の 6 日間の日程でした。この大会は、パブリックセッション等の一般の参加者を含めて、8,450 名 (2016 年 7,240 名) という大幅な参加者増により大盛況でしたが、会期を 6 日間にしたことと、国際規格のサッカー場の大きさの展示ホールをポスターセッション及び展示ブース等に利用したことで、全体的にゆったりとした会場で大会が開催でき、参加された皆様にはとても好評でした。サイエンスセッションへの会員参加者 6,645 名 (2016 年 5,487 名) のうち、海外からは、世界 48 カ国から 1,100 名を超える参加者があり、AGU との共催としてふさわしい大会となりました。参加者中、大学院生 (1,480 名) と学部学生 (744 名) は全体の 4 分の 1 を占めたほか、土曜日と日曜日に開催した高校生ポスター発表や NASA-JAXA ハイパー ウォール講演会等のアウトリーチ活動には、さらに 500 名以上の中高生が参加しました。今大会のセッション数は 253 件 (2016 年 194 件)、発表論文数は 5,645 件 (2016 年 4,515 件) といずれも前年より 20% 以上の大幅な増加となりました。会期中、土曜日と日曜日には高校生や一般市民向けの公開プログラムとして、地球惑星科学トップセミナーや高校生によるポスター発表など 6 つのパブリック セッションを実施し、およそ 1,200 名の一般参加者がありました。2017 年大会では AGU とのジョイントミーティングを記念して、連合 としては初めての試みとして、大会 2 日目の 21 日 (日) に基調講演を開催しました。JpGU からは 2015 年にノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章博士、AGU からは米国で一般市民にもっとも良く 知られた地震学者である Lucy Jones 博士をお招きし、ご講演いただきました。日曜日に開催することで、高校生等のパブリックセッションの参加者も参加し、熱心に聴講されていました。今回の AGU との共催により、およそ 1,300 名の AGU 会員が JpGU に登録され、さらに海外から 800 名が JpGU 会員となり、AGU との連携による国際学会としての体制も整えられてきました。

2018 年大会は、幕張メッセ国際会議場・国際展示場 (第 7 ホール)、及び東京ベイ幕張ホール会議場を使用して、5 月 20 日 (日) から 5 月 24 日 (木) の 5 日間にわたって開催されました。講演セッション数は 230 件、発表論文数は 5,001 件 (口頭発表 2,691 件、ポスター発表 2,310 件) と、AGU との共同開催であった 2017 年大会には及ばないものの、2016 年大会以前に比べるとセッション数、講演数共に大幅に増加

した結果となっています。本大会中には1日500件以上のポスター発表について、興味があるものを十分に聴取いただくため、コアタイムを夕方PM3(17:15~18:30)に加えて日中(AM2~PM2)にも設定しました。この結果、ポスター会場も終日賑わっていました。大会参加者数については、会員参加者が6,234名、アウトリーチ活動や展示出展への参加者を含めた参加者総数は7,986名でした。会員の中で海外からの参加者は、40カ国から約600名でした。2016年以前に比べて海外からの参加者数の大幅増が続いていることは、AGUとの共同開催によりJpGUの国際的な認知度が高まってきたためと考えられます。特筆すべきことは、2018年大会の会員参加者中、学生参加者(大学院生1,488名、学部生796名、高校生31名)が全体の37%(2,315名)を占めることです。このように連合大に参加する若者が2016年から2018年の3年間で年々増加していることは、地球惑星科学の将来の発展に向けて、本当に大きな希望を抱かせます。

以上述べてきましたように、2016年から2018年の連合大会は、2017年のAGUとのジョイントミーティングを中心として、2015年以前に比べて飛躍的な進展があり、①連合大会の国際化 ②電子的サービスの更新・拡充 ③連合大会会場の拡大 ④事務局の増強の成果が、貢献できたと考えています。このことを示すために、2015年から2018年までの参加者数などを表にまとめます。特に3年間の発展を示すために、2016年から2018年の3年間の、登録参加者数、発表論文数、大会収支などの平均値と改革に先立つ2015年とを比較します。2015年に比して3年間の平均値は、参加者数が約850名、論文数が約1000件増加しており、参加費の値上げによっても、参加者数などが大幅に増加し、参加者に広く受け入れられたことを示します。またこの参加者増加には、連合の国際化などの改革に向けた、各参加学会等の協力も貢献していると考えられます。この参加者増により、大会収入の増加は2015年に比較して約5000万円となっています。大会開催に必要な支出額の増加については約4000万円であり、大会運営のための事務局増強に使われた経費の増加分の約1000万円を足したものとほぼつりあっています。この結果は値上げ前の2015年9月の時点での参加者、会員の皆様へのお約束通り、値上げによる収入増は、ほぼ全て当初目的の達成のために使用されたことで、値上げが受益者負担の原則を満たしていることを示しています。

以上2016年から2018年の大会の発展を述べてきました。これについて、ぜひ皆様のご意見、特に参加費の値上げに伴う効果に関しての皆様の評価、ご意見をいただきたいと思います。2019年からの3年間の連合大会については、2020年には2回目のAGUとのジョイントミーティング、2021年には、2014年に続く2回目の横浜会場での開催を予定しています。今後の進展の計画に関しては、皆様のご意見などにより、連合をさらに発展させて行きたいと思っております。

年	会員参加者数	発表論文数	大会収入 ①	大会支出 ②	事務局経費 ③	連合活動費 ①-②-③
2015	5,271	4,037	103,851,970	47,935,851	19,253,185	36,662,934
2016	5,487	4,515	140,307,546	61,788,691	29,675,702	48,843,153
2017	6,645	5,562	171,067,300	122,127,141	31,426,502	17,513,657
2018	6,234	4,923	151,036,912	79,337,191	33,102,000	38,597,721
3年間 平均	6,122	5,000	154,137,253	87,751,008	31,401,401	34,984,844

会費の支払について

お支払方法

年会費、大会参加登録費等のお支払いは、オンライン会員情報登録システム ([JpGUログイン](#)) にてお願いいたします。

支払方法は、「クレジット決済」と「所属機関払い」があります。（海外在住の方はクレジット決済のみとなります。）

所属機関払いの場合は請求書が、クレジット決済の場合は領収書が発行されます。いずれも、[JpGUログイン](#)にてご自分で発行・印刷できます。

（原則として、事務局よりお送りすることはありませんのでご注意ください。）

[FAQ](#) [FB](#) [TW](#) [English TOP](#) [Japanese TOP](#)

JpGU2019

日本地球惑星科学連合 2019 年大会
MAY 26-30, 2019
Japan Geoscience Union Meeting 2019 | Makuhari Messe, Chiba, Japan

[▲ menu](#)[JpGU ログイン](#)
[サイトマップ](#)[日本地球惑星科学連合](#)
[お問合せ・コンタクト](#)[お支払について](#) ▼ MENU OPEN[EN](#)

お支払い（決済）方法

お支払い方法は下記 3 種類からお選びいただけます。

個人負担	クレジット決済
所属機関払い	クレジット決済（立替）
	機関振込（請求書払）

※使用できるカードは、VISA, MasterCard, JCB, AMERICAN EXPRESS, Diners Clubです。

※デビットカードは使用できません。

※振込による所属機関払いを選択できるのは日本に住所を持つ機関のみです。

所属機関払いについて

クレジット決済による立替

クレジット決済を行った後に、ご自身で領収書を印刷し、各機関へご提出ください。

JpGUから決済者へ領収書はお送りしません。

領収書の発行・印刷方法はこちら。

所属機関からの振込（請求書払い）

日本に住所を持つ所属機関に限り、機関からの振込を選択できます。

所属機関払いの決済日は、決済情報登録日（所属機関払いの手続きが完了した日）となりますので 決済情報の登録が完了していれば、実際のお振込み日時は各機関の処理日で結構です。

JpGUから各機関へ請求書はお送りしませんのでご注意ください。

お手続きをされた会員の方がログインページより請求書を印刷し、ご自身でご所属先機関へ提出してください。

請求書の発行・印刷方法はこちら。

お支払い後のキャンセル

年会費・投稿料・懇親会費

理由に関わらず、決済後のご返金は一切行えません。

※2019年大会より、投稿が不採択となった場合であっても、投稿料の返金はいません。

参加登録料

早期参加登録締切日時(5月8日23:59)までは参加申込のキャンセル及び返金を受付けております。
やむをえずキャンセルの必要がある場合には、[参加登録キャンセルフォーム](#)にてお知らせください。

決済時のトラブルについて

決済に関してトラブルが発生した場合には、必ず各手続きの締切日時までに [決済トラブルフォーム](#)からお知らせください。 **(メールでは受け付けておりません)**

> なお、どのようなトラブルであっても、締切後にご連絡いただいた場合には対応できません。
締切日時までにご相談いただいた方については、JpGUからの確認・お返事が締切までに間に合わなくても、締切後の決済を受け付けます。

クレジットカードがエラーになる

テクニカルな原因

- ・カード番号や電話番号の欄に数字以外（-ハイフン等）が入っていないか確認してください。
（正）00000000000000000000（誤）0000-0000-0000-0000
（正）0369142080（誤）03-6914-2080
- ・入力した数字やアルファベットの前後にスペースが入っていないか確認してください。
（正）0000（誤）□0000, 0000□

JpGUではテクニカルなサポートしかできないため、入力情報が正しいにも関わらずエラーが発生する場合には、カードホルダーの方とカード会社の間で状況の確認をお願いします。

その際は、必ずカードのトラブルで決済ができない旨を[決済トラブルフォーム](#)からお知らせください。

(メールでは受け付けておりません)

連絡がないままに決済締切を過ぎてしまいますと、理由によらず決済手続きができなくなります。

クレジットカードを持っていない/クレジットカードが使用できない

決済項目費の他に、事務手数料をお支払いいただくことで、お振込みによる決済を受け付けます。

日本国内からの振込	事務手数料 ¥2,000(税込)
海外からの送金	事務手数料 ¥4,000(税込)

振込での決済を受け付ける条件

必ず事前に振込を希望する旨を**決済トラブルフォーム**からご連絡ください。 **(メールでは受け付けておりません)**

担当者よりお手続きに必要な金額と振込先口座をお知らせします。

ご連絡の無い状態での振込はお断りしております。

銀行への振込手数料は振込者が負担してください。

担当者との間で振込の準備が整いましたら 指定された期日までにお振込み手続きを完了させてください。

振込期日例 ※下記以外の項目については、都度担当者からご連絡いたします	
早期投稿料	2月8日までに振込の可否をお返事しますので、2月13日23：59までに振込手続きを完了させてください。
(通常)投稿料	2月25日までに振込の可否をお返事しますので、2月28日23：59までに振込手続きを完了させてください。
早期参加登録料	5月14日までに振込の可否をお返事しますので、5月17日23：59までに振込手続きを完了させてください。

事前にご相談いただければ、複数の決済項目をまとめてお振込みいただくことも可能です。
(その際の事務手数料は1件分となります)

領収書

クレジットカード決済/立替を選択した場合のみ発行できます。
(機関振込を選択した場合には発行できません)

会員画面にログイン後、左の決済メニューの中の領収書発行ボタンで発行可能です。

領収書はPDFのポップアップで表示されます。ブラウザのポップアップを許可しておいてください。

領収書の発行は一度のみ可能です。表示の際はかならずお手元に保存してください。
2回目以降に表示させた場合には、「再発行」の印字が入りますのでご注意ください。

※領収書の日付と宛名は、ご提出先機関の仕様に合わせて、領収書発行時にご指定いただけます。
※領収書は決済項目ごとに1枚ずつ発行されます。

請求書

機関振込を選択した場合のみ発行できます。
(クレジットカード決済/立替を選択した場合には発行できません)

会員画面にログイン後、左の決済メニューの中の請求書発行ボタンで発行可能です。

請求書はPDFのポップアップで表示されます。ブラウザのポップアップを許可しておいてください。

※請求書の日付と宛名は、ご提出先機関の仕様に合わせて、請求書発行時にご指定いただけます。
※請求書は決済項目ごとに1枚ずつ発行されます。

大会について

大会組織

協賛・後援

お支払いについて

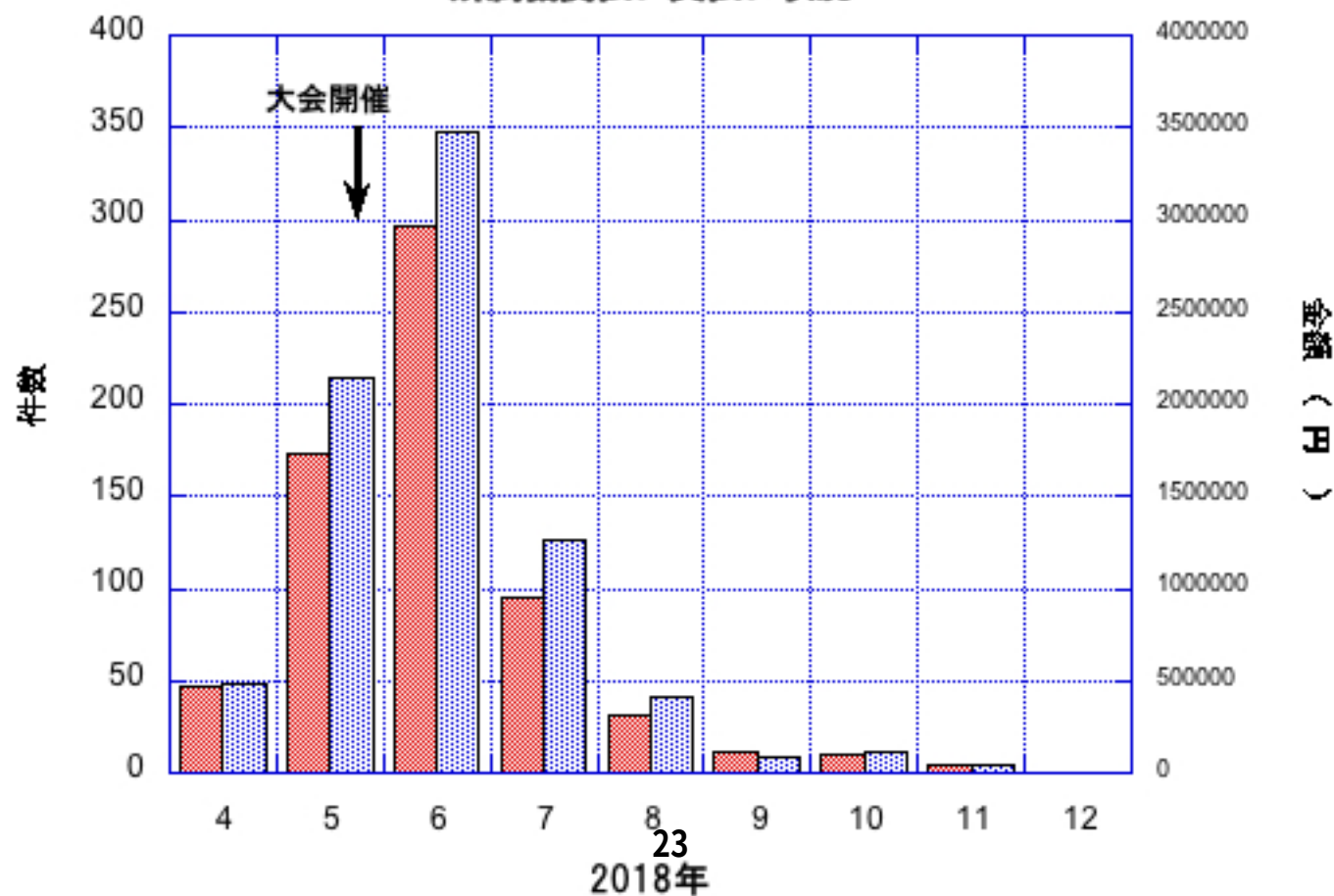
証明書の発行

各種お問合せ

■ 件数

■ 金額

所属機関払い支払い状況



ダイバーシティ委員会

① 予算申請

予算項目（時期・内容）	支出詳細・内訳	金額	決定額
消耗品（5月～11月）	JpGU時のキャリアバスブース、セッション等での消耗品（6000円）、女子中高生夏の学校等で使用の消耗品（5000円）	¥11,000	¥11,000
旅費（通年）	ダイバーシティ推進委員会・企画会議等への参加旅費、男女共同参画学協会連絡会関連会議及びシンポジウム（年3～4回）への参加旅費、セッション、シンポジウム、女子中高生夏の学校などの講師等の旅費	¥80,000	¥80,000
謝金（5月、8月）	JpGU時のパブリックセッション講師（JpGU非会20000円/1名×2名）、女子中高生夏の学校協力者（TA）への謝金など	¥48,000	¥48,000
通信費（5月、8月頃）	JpGU大会時及び女子夏学時の関係資料の送付等	¥10,000	¥10,000
その他の経費（通年）	男女共同学協会連絡会関連（シンポジウム参加費（2000円×1人×3名＝6000円）、ポスター登録料（3000円）、資料掲載代（2000円））	¥11,000	¥11,000
支払賛助金	第17期 分担金	¥20,000	¥0
印刷製本費	2019大会用チラシ及びポスター	¥20,000	¥20,000
保育室援助	保育室を大会内に設置へ変更		
見積	保育業者 37万円+会場賃借料 18万円 総額55万円		
充当予算	利用者負担 12万円+ 指定寄附 20万円+当初予算 17万円 合計49万円		¥170,000
	追加計上予算（55-49＝6）		¥60,000
	合計	¥200,000	¥410,000

2019年度 大会運営委員会 予算

中CD	中科目	小CD	小科目	内訳	2019年要求額	決定額
6113	臨時雇賃金	6152	その他アルバイト		¥4, 679, 600	¥4, 188, 750
				SNSポスター対応アルバイト	¥32, 000	¥32, 000
				懇親会司会アルバイト	¥10, 000	¥10, 000
				新聞プロ校正	¥200, 000	¥200, 000
				プリントサービスアルバイト	¥15, 000	¥15, 000
				ミニステージアルバイト	¥31, 750	¥31, 750
				受付人件費（派遣）	¥624, 600	¥3,900,000
				大会アルバイト	¥3, 166, 250	
				セキュリティー	¥600, 000	
6121	会議費				¥5, 975, 340	¥4, 501, 340
				懇親会補助（コンビーナー招待半額分）	¥450, 000	
				表彰式	¥200, 000	¥200, 000
				懇親会	¥1, 512, 000	¥1, 512, 000
				プレジデンシャルレセプション	¥270, 000	¥150,000
				ランチョン	¥200, 000	¥200, 000
				フィールドトリップ	¥50, 000	¥50, 000
				ケータリング	¥2, 993, 340	¥2, 389, 340
				展示懇親会補助（展示 1人分）	¥300, 000	
6162	旅費交通費				¥2, 208, 000	¥2, 208, 000
				大会運営委員会開催時交通費	¥540, 000	¥540, 000
				大会運営委員会その他会議経費（個別）	¥36, 000	¥36, 000
				プロダム編成会議開催費	¥429, 000	¥429, 000
				グレートデベート招聘派遣費	¥400, 000	¥400, 000
				フィールドトリップ（講師のような方）	¥63, 000	¥63, 000
				ポップアップトーク（お手伝いの旅費）	¥35, 000	¥35, 000
				事務局職員旅費（宿泊費含む）	¥605, 000	¥605, 000
				メッセボランティア 交通費	¥100, 000	¥100, 000
6123	通信運搬費				¥300, 845	¥300, 845
				高校生セッション	¥25, 000	¥25, 000
				新聞プロ他秋田活版 納入経費	¥100, 000	¥100, 000
				高校生ポスター賞発送	¥82, 000	¥82, 000
				海外対応	¥10, 000	¥10, 000
				展示勧誘	¥10, 000	¥10, 000
				展示用搬入者用駐車券送料	¥4, 100	¥4, 100
				講演依頼・礼状	¥19, 745	¥19, 745
				赤帽（メッセ往復 荷物搬出入）	¥50, 000	¥50, 000
				展示パンフレット送料		
6126	消耗品費				¥978, 280	¥978, 280
				高校生セッション関連消耗品 賞状用紙等	¥35, 180	¥35, 180
				SNSポスター	¥23, 500	¥23, 500
				表彰式用	¥3, 000	¥3, 000
				懇親会	¥18, 000	¥18, 000
				プレジデンシャルレセプション	¥30, 000	¥30, 000
				ミスターランチョン	¥16, 000	¥16, 000
				フィールドトリップ	¥1, 600	¥1, 600
				ポップアップ T シャツ	¥36, 000	¥36, 000
				スタンプラリー関係	¥50, 000	¥50, 000
				フレンズエリア	¥35, 000	¥35, 000
				受付周り備品	¥105, 000	¥105, 000
				受付システム名札	¥250, 000	¥250, 000
				セキュリティースタッフジャンパー（クリーニング代）	¥25, 000	¥25, 000
				スタッフジャンパー	¥300, 000	¥300, 000
				スタッフ昼食代	¥50, 000	¥50, 000
6128	印刷製本費	6172	プログラム印刷		¥2, 837, 420	¥2, 852, 620
				秋田活版 プロダム編集費	¥486, 000	¥500,000
				秋田活版 英語新聞プロ 81*2500*5*1.08	¥1, 093, 500	¥1, 093, 500
				秋田活版 日本語新聞プロ 94*1200*5*1.08	¥609, 120	¥609, 120
				秋田活版 英語プロ 150*4000*1.08	¥648, 800	¥650,000
6128	印刷製本費	6173	ポスター製作費		¥280, 500	¥280, 500
				懇親会	¥3, 000	¥3, 000
				スペシャルレクチャー	¥13, 500	¥13, 500
				フォトコンテスト	¥117, 000	¥117, 000
				大会ポスター作成	¥20, 000	¥20, 000
				フライヤー作成	¥30, 000	¥30, 000
				ホットトピックスポスター	¥30, 000	¥30, 000
				SNSパスター（支払い金額）	¥67, 000	¥67, 000
6128	印刷製本費	9999	その他		¥445, 000	¥445, 000
				会場別日程表	¥30, 000	¥30, 000

				講演会場前プログラム（秋田活版）	¥162,000	¥162,000
				会場装飾	¥75,000	¥75,000
				現地掲示物	¥15,000	¥15,000
				クーポン印刷	¥15,000	¥15,000
				展示パンフレット	¥43,000	¥43,000
				スタンプラリー台紙	¥95,000	¥95,000
				現地印刷費	¥10,000	¥10,000
6132	賃借料	6183	会 場 賃 借 料		¥35,245,380	¥35,390,380
				フェロー控え室		¥145,000
				表彰式会場	¥54,000	¥54,000
				懇親会会場	¥324,000	¥324,000
				会場費国際会議場（国内学会割引あり）	¥11,232,000	¥11,232,000
				会場費展示場	¥12,607,620	¥12,607,620
				会場費東京ベイ幕張（懇親会割引適用）	¥11,012,760	¥11,012,760
				フォトコンテスト	¥15,000	¥15,000
6132	賃借料	6184	設備機材賃借料		¥22,157,118	¥21,582,448
				国際会議場設備代	¥6,374,700	¥6,374,700
				国際展示場設備費	¥2,272,320	¥2,272,320
				東京ベイ幕張設備費	¥547,560	¥547,560
				設営費	¥2,052,000	¥2,052,000
				ガス電気水道	¥3,848,040	¥3,848,040
				プレス用	¥73,980	¥73,980
				保育ルーム	¥192,510	¥180,000
				ミニステージ	¥382,968	¥382,968
				展示設備	¥3,932,280	¥3,932,280
				展示設営費	¥729,000	¥729,000
				受付システム（PCなど）	¥1,352,160	¥790,000
				受付周りのレンタル品	¥399,600	¥399,600
6132	賃借料	9999	そ の 他		¥175,500	¥175,500
				キャリアーブース	¥8,000	¥8,000
				物品レンタル（携帯など）	¥110,000	¥110,000
				SNSポスター（WiFiレンタル）	¥57,500	¥57,500
6135	租 税 公 課				¥50,000	¥50,000
				VISA用登録簿謄本	¥50,000	¥50,000
6136	支払手数料					
6139	委託費		システム関連←項目追加			
6139	委託費	9999	そ の 他		¥7,421,960	¥6,984,000
				プログラムシステム 秋田活版ウェブ	¥350,000	¥350,000
				JpGU-AGUブース	¥1,697,960	¥1,200,000
				高校生セッションシステム	¥120,000	¥120,000
				VISA用申請書類発行手数料	¥250,000	¥250,000
				展示メッセ委託	¥970,000	¥970,000
				受付システム	¥3,852,000	¥3,852,000
				翻訳依頼	¥20,000	¥20,000
				展示システム 2019年対応修正	¥162,000	¥162,000
				学生賞ソフト		¥60,000
	保守費		保守費		¥2,829,600	¥2,829,600
				プログラムシステム大会アプリ	¥1,749,600	¥1,749,600
				プログラムシステム 投稿システム	¥1,080,000	¥1,080,000
6140	雑 費				¥200,000	¥100,000
				ジオツアー	¥100,000	¥100,000
				フットサル	¥100,000	¥0
6141	保険料				¥189,220	¥189,220
				ボランティア保険	¥8,000	¥8,000
				大会参加者保険	¥30,000	¥30,000
				アルバイトの傷害保険	¥130,000	¥130,000
				フィールドトリップ参加者保険	¥21,220	¥21,220
	合計				¥85,973,763	¥83,056,483

寄附者名簿

個人情報のため非公開とする

教育検討委員会関連事項資料

2019 年 1 月 8 日作成

担当理事 市川 洋

審議事項

1. 教員養成等検討小委員会の廃止

本小委員会は連合の組織図では存在している。しかし、教員養成にかかわる問題が本小委員会で扱うことができないほど多様であることから、最近では活動が行われていない。この状況について、教育検討委員会で検討・審議した結果、本小委員会を廃止し、教育検討委員会の中に WG を設けて、地学教育の理念から見直し、問題を整理し、理数系学会教育問題連絡会などに働きかけることとした。

上の理由により、以下の教育検討委員会規則改正を提案する。

改正前：

第 4 条 教育検討委員会のもとには、以下の小委員会を置く。

- (1) 大学及び大学院教育小委員会
- (2) 教員養成等検討小委員会
- (3) 教育課程小委員会
- (4) 教育国際対応小委員会

附則

平成 28 年 11 月 25 日理事会改正

改正後：

第 4 条 教育検討委員会のもとには、以下の小委員会を置く。

- (1) 大学及び大学院教育小委員会
- (2) 教育課程小委員会
- (3) 教育国際対応小委員会

附則

平成 28 年 11 月 25 日理事会改正

平成 31 年 1 月 15 日理事会改正

報告事項

1. 平成 30 年度教員免許状更新講習実施報告

講習名：数値シミュレーションで学ぶ津波の基礎

開催月日：12 月 27 日、開催地：東京都文京区

受講者数：3 名（定員：15 人）

注）2 件を開設したが、上の 1 件のみを実施した。他の 1 件（開催地：山梨県）は応募者がなかった。

その原因としては、参加者募集が短期間であったこと、広報が不十分であったこと等が可能性として考えられる。

2. 第 11 回日本地学オリンピック予選実施報告

第 11 回日本地学オリンピック予選（兼第 13 回国際地学オリンピック韓国大会予選）を 2018 年 12 月 16 日(日)に、全国 70 会場（44 の大学等会場、26 の特例（高校）会場）で実施した。応募者 1952 名の内、受験者は 1600 名であった（欠席者は、大学等会場で 100 名、特例会場で 252 名）。

3. 第 13 回科学地理オリンピック日本選手権第 1 次選抜試験実施報告

第 13 回科学地理オリンピック日本選手権大会及び第 16 回国際地理オリンピック世界大会(香港・中国)の第 1 次選抜試験を 2018 年 12 月 15 日(土)に、全国の 31 の一般会場、25 の特例会場にて実施した。全体応募者 1450 名の内、受験者数は 1326 名であった（欠席者は、一般会場で 56 名、特例会場で 68 名）。

4. 日本学術会議地球惑星科学委員会地球惑星科学人材育成分科会報告

第 5 回人材育成分科会が 12 月 28 日に開催された。

5. アースサイエンスウィーク・ジャパン 2019 開催予定

昨年に引き続き、アースサイエンスウィーク・ジャパンを 2019 年 10 月 12 日～18 日に静岡県で開催する。講演会（12 日、13 日）、巡検（12 日）などを予定している。

6. 連合 2019 年大会パブリックセッション概要

5 月 26 日(日)午後に行うパブリックセッション「社会と JpGU との相互交流によって創る新しい地球惑星科学教育」の構成を決め、以下の招待講演者に講演を依頼した。

基調講演：少子高齢化・AI 時代に向けての科学教育と新学習指導要領

滝川 洋二（NPO 法人理科カリキュラムを考える会／NPO 法人ガリレオ工房）

研究者（地学・地理）からの発言

阿部 なつ江（国立研究開発法人海洋研究開発機構）

小口 高 （東京大学）

高校教員（地学・地理）からの発言

小玉 秀史（千葉県立松戸国際高等学校）

小河 泰貴（岡山県立津山高等学校）

大学・大学院学生（地学・地理）からの発言

大塚 英人（信州大学理学部 4 年、4 月から東北大学大学院学生）

宮尾 拓也（筑波大学大学院教育研究科 1 年）

企業人からの発言

千葉 達朗（アジア航測株式会社）

市民と専門家の橋渡しについて

保坂 直紀（サイエンスライター）

7. 教育検討委員会 HP 開設

12 月 26 日に、本委員会トップページ <http://www2.jpгу.org/edu/top/> へのリンクを、
連合トップページ＞組織＞委員会 <http://www.jpгу.org/organization/committee.html> に張り、
一般に公開した（添付資料参照）。

以上



教育検討委員会

MENU

- 0 連合トップページ
- 0 教育検討委員会トップページ
- 0 イベント情報
- 0 教育検討委員会とは
- 0 教育課程小委員会
- 0 国際教育対応小委員会
- 0 大学及び大学院教育小委員会
- 0 シンポジウム等の資料
- 0 活動報告、提言、等
- 0 教育検討委員会規則・メンバー
- 0 リンク
- 0 お問い合わせ

教育検討委員会トップページ

最終更新（2019年1月8日）

お知らせ（[アーカイブ](#)）

教育関連情報や本サイトの更新情報などを、随時、お知らせします。

2019年1月8日投稿

[「リンク」ページ](#)を更新（リンク先を追加）しました。

[「イベント情報」ページ](#)を更新（2件追加）しました。

2019年1月4日投稿

「イベント情報」ページを更新（1件削除）しました。

マスコミに掲載された教育関連記事

毎日新聞1月4日東京朝刊

[平成という時代 第3部 変化 I Tと人間らしい教育、両立を 元文相・有馬朗人さん](#)

[平成という時代 第3部 変化／3（その1） 学ば「場」ネットに](#)

[平成という時代 第3部 変化／3（その2止） 揺らぐ一斉授業 高校生、I T企業要職に](#)

2019年1月2日投稿

公立学校教職員の人事行政状況（教職員の精神疾患による病気休職者数、教育職員等の懲戒処分等、指導が不適切な教員の認定及び措置等、人事評価等）についての平成29年度調査結果が、2018年12月25日に文部科学省から公表されました。

[詳細](#)

2018年12月26日

連合トップページ> 組織> 委員会

<http://www.jpgu.org/organization/committee.html>

から本委員会トップページへのリンクが張られました。

教科「理科」関連学会協議会の来年度のシンポジウム情報

を「[イベント情報](#)」ページに追加しました。

2018年12月3日

連合2019年大会のセッション詳細、コマ割が公開されました。

[詳細\(html\)](#)

2018年11月26日

2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）

が文部科学省のサイトで公開されました。

[詳細 \(html\)](#)

埼玉から地学 地球惑星科学実習帳（2017年版）

[地学オリンピック日本委員会ウェブサイト](#)で公開中

CDを無料配布中（申込先：office [a] jpgu.org）

京都大学防災研究所研究集会

地学教育の展望－来たるべき南海トラフ地震に備えて－

（2018年8月25日～26日開催）の報告書が公開されました。

[詳細 \(html\)](#)

教育検討委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、教育検討委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 教育検討委員会は、学校教育及び社会教育における地球惑星科学に関わる諸問題を担当し、委員会での検討結果を理事会に報告する。また、教育問題に関し、理事会からの諮問に応じ、又は理事会に意見を述べる。

(幹事)

第3条 教育検討委員会には、幹事を置く。
2 幹事は、正会員の中から、委員長が選任する。
3 幹事は、委員長及び副委員長を補佐する。
4 幹事の任期は2年とし、再任は妨げない。

(委員会の下に置く組織)

第4条 教育検討委員会のもとには、以下の小委員会を置く。

- (1) 大学及び大学院教育小委員会
- ~~(2) 教員養成等検討小委員会~~
- (3) (2) 教育課程小委員会
- (4) (3) 教育国際対応小委員会

(委員会の運営)

第5条 法人運営基本規則第18条第1項の場合のほか、本委員会については、5分の1以上の委員により会議の招集が請求された場合、委員長は速やかに会議を招集しなければならない。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長及び副委員長の任期)

第5条 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。

附則

本規則は、この法人の設立の登記の日に遡って適用されるものとする。

附則

平成26年4月28日委員会名変更

平成27年10月26日理事会改正

平成28年11月25日理事会改正

平成31年1月15日理事会改正

2018 年12 月17日

男女共同参画学協会連絡会 要望書提出の趣意書

提言・要望書WG 平田典子

1. 目的

男女共同参画学協会連絡会(以下「連絡会」と称する)はその事業の一つの柱として、大規模アンケートを行い、女性研究者・技術者を取り巻く課題を浮き彫りにしてきました。また、このアンケートの結果を基に提言・要望活動を行い、成果を上げてまいりました。

2017 年8 月に公表された第4 回大規模アンケート解析報告書に基づき、第17 期でも要望書の提出を目指しております。可能な限り、全ての参加学協会様の総意として連絡会の名のもとに要望書を提出したいと考え、ご協力をお願いする次第です。

2. なぜこの時期に審議をお願いするか

現在は年末の時期であり、決算や各種報告書の取りまとめとともに、教育機関においてはこれから入試や成績評価等の時期に当たり、参加学協会様の意思決定部門構成メンバーのご多忙を拝察しております。その中におきまして、大規模アンケート解析報告書のエビデンスに基づいた要望書が課題解決のための政策に活かされるよう、この今の時期、すなわち、各府省の予算案編成に間に合うように要望書提出の時期を設定いたしました。

通常、次年度予算は7～8月に各府省から概算要求が提出され、12月に政府原案が決定し、次年度開始前の翌年2～3月に国会で予算が成立します。概算要求に要望が反映されるためには、大きな予算を必要とするものは次年度概算要求に向けた3月末までに各府省等に要望書を提出することが望ましいと考えられます。また2021年は第6 期科学技術基本計画(5年ごと)の施行年度になります。2019年より、基本計画の下書きが内閣府の総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)の主導により開始されます。女性研究者支援及びダイバーシティ(女性・若手・外国人)支援に対する基本理念を、基本計画の大項目に明示的に書き入れて頂くことと、予算配分は直接関係します。CSTI のみならず関与の大きい文部科学省(科学技術・学術政策局)と内閣府(男女共同参画局)にも連絡会は要望書の提出をしております(提出は全て手交にて行います)。

3. 要望書作成の経緯

これまで第4 回大規模アンケートの解析と並行して、連絡会の提言・要望書ワーキンググループでは要望書作成のための会合を複数回開催し、この度の要望書を作成いたしました。

今回の要望書の内容は、第6 期科学技術基本計画と第5 次男女共同参画基本計画に対する要望書として引き継がれていくようにしなければならないと考えられます。提言・要望書の提出は今回に限るものではなく、継続的に行うことで女性研究者・技術者が置かれている状況への理解と施策への反映が期待できる次第です。今回の要望書で盛り込むに至らなかった諸課題も、今後に取り上げて行ければと考えております。

4. 要望書の提出先

上記に述べましたように、連落会は要望書をCSTI、文部科学省(科学技術・学術政策局長)、内閣府(男女共同参画局)に手交にて提出してまいりました。府省において行政の領域を重視する慣習を刺激しないよう、あえて要望書には提出先を印刷しておりません。提出先ごとに要望書を印刷・製本できればよろしいのですが、残念ながらその予算がないために、手交の相手ごとに封筒に提出先を記載することで、話を聞いて頂けない事態を避けるように努めているという理由がございます。

また、郵送などによって要望書を送付しても、要望実現には何一つ結びつかないことを申し添えます。

なお、「男女共同参画」もしくは「ダイバーシティ」を推進するために「女性研究者支援」を行い、また「女性活躍を推進」する、という言葉を用いております。こちらは行政の用語の慣習にならった上でございますことを申し添えます。

要望書の提出はタイミングがもっとも重要でありますことを最後に申し上げます。 以上

平成30年12月17~~9~~日

大学等 高等教育機関の入学試験に対する声明（案）

男女共同参画学協会連絡会

大学等高等教育機関の入学試験における女子への不当な差別の存在が、このたび明らかになり¹⁾、誠に残念です。将来にわたり我が国の科学技術の発展に禍根を残す事態であることが憂慮されます。大学等高等教育機関の入学試験における機会均等の保証は、男女全ての国民の基本的人権を守るために不可欠です。同時に、この機会均等の保証は、国連の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」における⑤ジェンダー平等実現にもかかげられているように、世界共通の目標²⁾でもあります。

私どもは我が国の男女に対して、大学等高等教育機関の入学試験が正当な理由のない差別を伴わないこと、そして差別撤廃のためのあらゆる努力が払われることを強く願います。また、性別や年齢等による不公平が生じないよう、公平性確保のために女子の入学・卒業・就職に関する長期的支援およびその基盤整備等が政府主導により策定されることを望みます。

今後も、入学試験の公平性についての情報公開や調査³⁾が入学試験全般において継続的に実施されることを強く希望します。

註)

<http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sustainable-development-goals.html>

1) <https://www.tokyo-med.ac.jp/news/media/docs/20180806houkokusyo.pdf>

2) <http://www.jp.undp.org/content/tokyo/ja/home/sustainable-development-goals/goal-5-gender-equality.html>

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/senbatsu/1409128.htm

平成30年12月17日

研究力強化に向けた女性活躍指標の整備に関する要望（案）

男女共同参画 学協会連絡会

この12年間の文部科学省の女性研究者支援事業によって、女性の能力発揮の基盤整備が進められました。平成30年度も「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ 女性研究者研究活動支援事業」を継続して頂き、深く感謝いたします。これらのご支援の下、我が国の女性研究者数は2017年3月末の時点で13万8400人(15.7%)となり、過去最多を更新しました。しかし、我が国の女性研究者比率を諸外国のそれと比べますと、未だに先進国中で最下位を争う状況にあります(註1)。従って、自然科学系研究分野の女性研究者数、とりわけ及び女性リーダーの数は多いとは言えず、大学等全ての高等教育機関・研究機関の施策決定、採用・登用・昇進等に関する審査・評価等に女性の意思を十分に反映させることを困難にしています。

私たちは、我が国の研究力の総合的な向上のために目指し、研究・教育の場における多様な人材育成とダイバーシティ推進に対してのために以下の要望をいたします。

1. 大学等全ての高等教育機関・研究機関における女性研究者の研究力強化のためのさらなる基盤整備

- (1) 女性研究者に関する情報公開
- (2) 「女性活躍推進指標:GEMST Index」の策定

2. 多様な人材確保を目指した環境改善推進及び女性研究者の育成支援

- (1) 人事選考における公平性・透明性の確保
- (2) 研究者の育成支援に関する基盤整備の充実
- (3) 女性を含むダイバーシティに関する研究環境の実現に係る「(異分野)融合研究領域」の新規創設と研究費の付与、またはもしくは現行研究費における審査区分創設

3. 次世代を担う女性研究者の育成

- (1) 女子中高生の理系進路選択支援事業の継続・推進
- (2) 女子学生の高等教育機関入学試験等に関する機会均等保証のための基盤整備

1. 大学等全ての高等教育機関・研究機関等における女性研究者の研究力強化のためのさらなる基盤整備

(1) 女性研究者に関する情報公開

- ①大学等全ての高等教育機関・研究機関等における女性研究者の人数等の機関統計においては三要素『職位別・部局別（もしくは分野別）・性別』を含むものとする。それらの各機関ホームページ上等における公開を推奨すること。
- ②学長・副学長・理事・副理事等、組織の意思決定機関における女性割合を公開すること。

(2) 「女性活躍推進度指標:GEMST Index」の策定

- ①「女性活躍推進度指標(Gender Empowerment Measure in Science and Technology): 略称 GEMST Index」を策定し、大学等の高等教育機関・研究機関等に対する評価項目に、本指標を含めること。
- ② 国公立大学等の運営費交付金における機能強化係数、私立大学等における私学助成金特別枠の決定等に、例えば先進的な機関に対するインセンティブ付与等の形により、本指標による評価を反映させること。また、各機関の自己点検・自己評価においても同じく本指標による評価を反映させること。
- ③ 本指標の内容については、(1)の情報公開状況も含め付表1に記載。

2. 多様な人材確保を目指した環境改善推進及び女性研究者の育成支援

(1) 人事選考における公平性・透明性の確保

- ① 大学等の高等教育機関・研究機関の一人事選考委員会委員長、及び委員全員における委員長を含む委員全員に対し、女性活躍推進に向けた啓発のためのセミナー受講もしくはe-learning ツール受講修了を義務付けること（註2）。
- ② 上記①の啓発を目的とする優れたツール集の作成及び公開の促進を行うこと。また、それを行うための研究費を付与する研究領域新規創設等の施策を策定すること（下記（3）参照）。
- ③ 大学等の高等教育機関・研究機関等が大型の競争的予算を申請する場合は、各機関がダイバーシティ推進の努力をしていることを申請条件に加えること。例えば「女性活躍推進度指標：GEMST Index」で一定以上の評価を獲得している等。資金に基づく運営において、ダイバーシティが推進されることを担保するため、各機関が大型の競争的予算を申請する場合にはダイバーシティ推進の努力をしていることを示す客

観的指標、例えば（２）のGEMST Indexを申請時に示すとともに、採択後の評価においてこの客観的指標を活用すること。

（２）研究者の育成支援に関する基盤整備の充実

大学における定員削減、外部資金による特任等の任期付き研究職等の増加に伴い、若手に限らず、また男女共において、研究者全般、特に任期付き研究職にある研究者の身分が極めて不安定になっています。とりわけ、出産等のライフイベントのある女性研究者にとっては深刻な状況です。我が国の研究力強化のためには、この現状を速やかに把握し、早急に対策を取ることが不可欠です。

- ①大学等高等教育機関・研究機関等の任期付き研究職にある研究者の年齢分布、男女別分布、その後の進路等を国の責任の下に継続的に調査すること。そして我が国の優れた研究を支える次世代研究者育成の観点からも、任期制がもつ課題を分析し、施策に反映させること。
- ②上記①の調査データに基づき、男女共同参画の観点からも任期付き研究職の制度がもつ課題を分析し、施策に反映させること。
- ③ワークライフバランスに関する支援として、産前産後休暇を申請する任期付き研究職にある女性研究者及び、また育児休業を申請する任期付き男女研究者を雇用する各機関に対し、雇用任期・研究費の期間延長（クロック延長）等の義務付けを行うこと。加えて、雇用機関においては、育児休業中・育児中の男女研究者に対し、代替補助要員の雇用予算計上を可能にする制度を整えること。さらに、文部科学省が大学等高等教育機関・研究機関等を評価する際の指標に、代替補助要員雇用制度の有無等を追加すること。
- ④任期付き研究者の研究費の使用については、研究者本人の不利益となるような制度上の様々な制約がある場合が見受けられるため、若手に限らず、また男女共において、任期付き研究者にかかる研究費使用制約等の実情を調査し、柔軟な研究費の運用ができるよう改めること。

（３）女性を含むダイバーシティ研究者・ダイバーシティに関する研究環境の実現に係る「（異分野）融合研究領域」の

新規創設と研究費の付与、または現行研究費における審査区分創設新しい研究費もしくは現行の研究費における審査区分の創設

女性研究者支援事業における12年間の蓄積を「科学」として扱うべき時期に至ったと考えます。この支援によるダイバーシティ推進と研究力強化のためには、これまでに可視化されてきた様々な課題を、統計学、行動経済学、社会心理学等々の手法を取り入れて「（異分野）融合研究領域」として学問化し、調査を進めるのみならず、新たな学問分野における研究者

の育成が極めて重要です。最近世界的に大きく注目されている「女性の視点を活かした技術革新(Gendered Innovation)」や「無意識の偏見(Unconscious Bias)」に関する国内の研究者は数少なく、現状では、米国、英国、EU等の先進事例に学ばざるを得ない状況です。一方、本連絡会や各機関の共同参画推進室を中心に、上記分野に取り組む意欲をもつ人材が着実に育ちつつあります。

我が国ではまだ充分には女性を含むダイバーシティの推進がなされていないため、この層の研究者の育成を活性化することによって、ダイバーシティ推進が期待されます。従って自然科学系も含めた「(異分野)融合研究領域」として、女性を含むダイバーシティ研究環境の実現に係る「(異分野)融合研究領域」の新規創設と研究費の付与、または現行研究費における審査区分創設を要望いたします。従ってこの層の研究者の育成のために、理工系・医学系も含めた「(異分野)融合研究領域」として女性研究者・ダイバーシティに関する新しい研究領域、もしくは現行の研究費における新規審査区分の創設及び研究費の付与を要望いたします。

3. 次世代を担う女性研究者の育成

(1) 女子中高生の自然科学系分野への進路選択支援事業の継続・推進

我が国では、大学・大学院における自然科学系分野への女子学生の割合が諸外国に比較して低く、女性研究者が少ない原因となっています。女子中高生の自然科学系分野の学部等への進学率を高め、また大学院博士課程に進学する女子学生の割合を高めることが、次世代女性研究者割合の拡大のために必須と思われます。

- ① 女子中高生向けの自然科学系分野への進路選択支援・女子学生向けの自然科学系分野の大学院博士後期課程進学支援に係る事業の継続及び推進。
- ② 自然科学系研究分野における女子学生・女子大学院生向けのキャリアパス支援に係る事業推進。
- ③ 初等中等教育における数学・理科・情報の女性教員割合増加のための事業推進。

(2) 女子学生の高等教育機関入学試験等に関する機会均等保証のための基盤整備

- ① 大学等の高等教育機関入学試験における公平性が保たれ、女子に対する差別を撤廃するために、女子学生の入学・卒業・就業に関する長期的支援及びその基盤整備等が、政府主導により策定推進されること。
- ② 入学試験の公平性についでに関する情報公開や調査が、入学試験全般において継続的に実施されること。

註1：内閣府男女共同参画局 平成30年版男女共同参画白書 1-5-7 図

註2：本会により作成された女性活躍推進に向けた啓発のためのリーフレットツール
「無意識のバイアス」

<https://www.djrenrakukai.org/shiryou.html#unconsciousbias>

及びこの「無意識のバイアス」に対する海外の評価

<https://advance.washington.edu/liy/resource/1852#comment-26>

Global Strategy Committee 報告

1) 12月10日(月)AGU 執行部との breakfast meeting

- ・ 2020 joint meeting の AGU 側の Program Committee Chair が W. McDonough 氏に決まった
- ・ (AGU section leader, 東北大との関係が深い)
- ・ AGU Fall meeting 参加者約 29,000 人の見込み
- ・ AGU Centennial の活動に関する報告。一例として、AGU は Web に載せる short audio Stories の企画を始めた。AGU が用意したアプリを用いて簡単にできる。この企画に協力するために、JpGU が 2019 大会で録音できるブースを用意するなど。

2) 13日(水) JpGU-AGU joint meeting 準備状況の打ち合わせ

Rm 306 Washington Convention Center

Attendees

AGU: William McDonough (AGU joint meeting co-chair), Brooks Hanson, Lauren Parr

JpGU: Suyehiro, Inagaki (JpGU joint meeting co-chair), Takahashi, Hori, Kyono, Murayama, Yasunari, Wallis, Shirai, Ide

- ・ 英語化の重要性
2020 年の JM を前回より更に発展させるために、セッションの英語化が重要な課題であるという意見が多かった。AGU は最近フランスでの研究会を開き、同時通訳を利用した例があり、2020 JM でも同様な取り組みも可能かもしれない。予算申請の可能性はある。
- ・ 早期情報公開 (AGU からの呼びかけ、及び JpGU の HP など立ち上げ)。JpGU 側で計画を立てる。
- ・ 海外からの参加者人数増加。具体的な数値目標があるとよいが、要検討。
- ・ JpGU と AGU の情報交流を推進するために、国際活動に関係した AGU 委員会に JpGU 理事会推薦の枠を考えるのがどうかという案があった。AGU はそれについて前向きで、Meetings Committee に参加すると良いのでは？分野などのバランスがあるから JpGU から 2-3 名の推薦者があると良い。委員会は年に 2 回ほど face to face meeting があり、その他に online 会合も年に 2 回ほど。現在 Huixin Liu 氏 (九大) は Wallis の後任で Committee for International Participation の委員を務めている。
 - ・ 2019 年の Great Debate のテーマが「research assessment」に決まったことが報告された。JpGU 側から村山さんが司会を務める。
- ・ AGU Centennial

2020 年の JM で特別セッションの企画を検討したかどうかという話があった。「the next 100 years of geoscience」などは適切かもしれない。

3) EGU との MOU

- ・ 末廣氏と Wallis が Philippe Courtial 氏（EGU 事務局長）と話し合った。
JpGU 及び EGU は更新に前向きである。ただし、両大会での会員・発表条件が異なるために、現況では EGU 会員にとって多少有利な条件になっている。継続審議とした。

4) JSPS Washington office 訪問。

JSPS 側の参加者： 平田 光司 Director 貴船 永津子 Deputy Director 吉田 滯
International program associate

- ・ 情報交換が中心だが、次回 Washington で開催した時、ブース代の一部を負担することについて前向きであった。

5) JpGU ブース

別紙参照

5) その他

- ・ 2019 年大会の JpGU Friends エリアの担当を津川 卓也氏(NICT)に快諾して頂きました。

AGU Fall Meeting 2018 における

ブース出展および JpGU 参加報告書

地球惑星科学分野において、世界最大の規模である American Geophysical Union の 2018 Fall Meeting が（2018 年 12 月 10-14 日）、で開催され、日本地球惑星科学連合は展示企画に参加した。2014 年よりアイランドブースに拡大した展示であったが今回は 2 ブースに縮小しての展示となった。JpGU Meeting 2019、その後に控えている 2 度目の AGU とのフルジョイントミーティングとなる JpGU-AGU Joint Meeting 2020、および横浜で開催予定の JpGU Meeting 2021 の宣伝 PR に努めた。他に、2014 年 4 月に創刊された連合の公式ジャーナル PEPS の紹介、姉妹紙である EPS および連合の団体会員である地球惑星科学関連学協会の国際ジャーナルの広報、加えて、日本におけるポスドクの受け入れなどの説明の為、JSPS ワシントンオフィスにご協力いただき、参加者の皆様の質問に答えた。本報告では、イベントにおける概要、出展内容・結果などを報告する。

1. AGU Fall Meeting 2018 概要

名称	AGU Fall Meeting 2018
日時	2018 年 12 月 10 日（月）～14 日（金）
会場	Walter E. Washington Convention Center, Washington D.C., USA
ウェブサイト	http://fallmeeting.agu.org/2018/

◎会期中のイベント

※イベントはこの他にも多数あったが、JpGU と関連があるもしくは JpGU 関係者が参加したイベントを記載している。

12 月 10 日（月）	09:00-10:00	Leadership Breakfast Meeting
	18:00-20:00	Ice Breaker Reception
12 月 11 日（火）	13:40-15:40	AGU-EGU-JpGU Great Debate
12 月 12 日（水）	18:00-20:00	Honors Ceremony
12 月 13 日（木）	07:45-09:00	AGU-JpGU Meeting
	15:00-16:00	Visit JSPS Washington DC Office

その他 NASA とのミーティング(Dec 10, MON) Fujimoto/Suyehiro/Murayami/Shirai

AGI とのミーティング(Dec 13, THU) Suyehiro/Shirai

EGU とのミーティング(Dec 13, THU) Suyehiro/Wallis/Shirai



←Leadership Breakfast Meeting の様子



JSPS 訪問の様子→

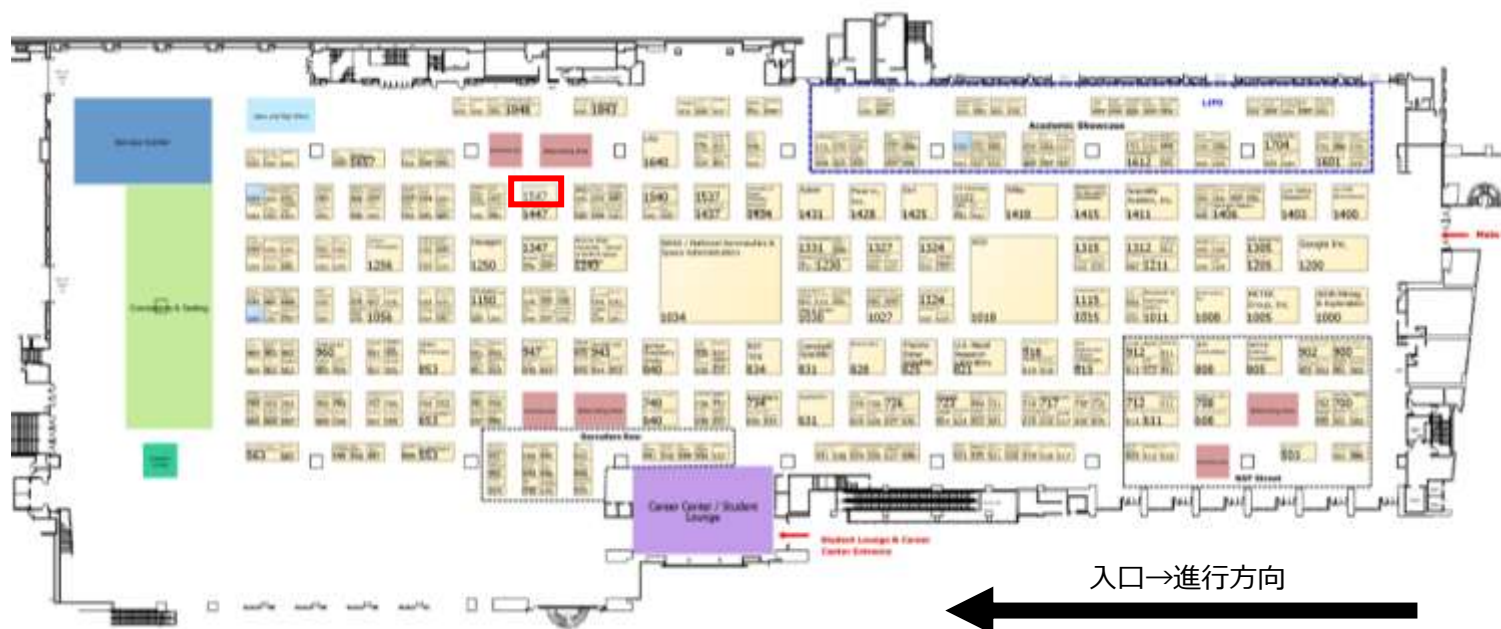
2. JpGU ブース

昨年の展示会場は奥にポスター会場が繋がっていたが、今年度は展示会場とポスター会場は別々の会場（階が違う）であった。JpGU ブースは展示会場の中でも入り口から多少離れた場所にあり、また、昨年のアイランド（4 ブース）から 2 ブースへとスペースが縮小となったことによりハンギングサインが使用できない（アイランドブースでないとは掲げられない）等、例年と比べて変化が何点かあった。縮小や位置による立ち寄り人数の減少が懸念されたが、バックパネルを含めたデザインが好評であり、例年と変わらない様子であった。

翌年にジョイントミーティングを控えた来年の出展も今年と同様の規模のブースとなるのでさらなる工夫、アナウンス等を行い周知を促していきたい。

※2018 年は 12/10 発行のメールニュースでグローバル戦略委員会からとして AGU Fall Meeting 2019 での JpGU のブース番号をアナウンスした。

展示会場図（ブース位置） Booth #1347 (\$1,750)



<ブースの様子>



1.バックパネル クロス製 1 枚

3.カウンタ前面 4 枚

2 ブースエリアに 4 カウンター設置し各々の担当者が対応した



1) 日本地球惑星科学連合カウンター

【出展内容】

- ・JpGU Meeting 2019, JpGU-AGU Joint Meeting 2020, JpGU Meeting 2021 in Yokohama の宣伝紹介
- ・日本地球惑星科学連合およびそのセッション活動紹介
- ・日本地球惑星科学連合のロゴを掲載している国際誌の紹介・宣伝
 - Mineralogical Petrological Sciences (日本鉱物科学会)
 - Geochemical Journal (日本地球化学会)
 - Hydrological Research Letters (水文・水資源学会)
 - Journal of Agricultural Meteorology (日本農協気象学会)
 - Resource Geology (資源地質学会)

＜PR 用配布物＞

- 連合の紹介パンフレット 20 部
- JpGU Meeting 2019 リーフ 1000 部
- JpGU-AGU, AOGS, EGU Joint Session リスト 500 部
- JpGU Meeting 2018 総セッションリスト 1000 部
- ノベルティ：箸&スプーンセット、箸&箸置きセット、桜せっけん 各 240 個



【出展結果・来場者の傾向】

今回は2ブースになったが、例年通りJpGUを知っていて訪れてくれる参加者とゆっくりブースで話げできた。話をさせていただいた参加者の多くが当連合を知っている、参加したことがある、もしくは同僚が参加したことがある、と本当にMeetingに興味をもった方が自主的にブースに訪れてくれた印象である。少し手狭にはなったがブースは日本人参加者の待ち合わせ、小打ち合わせなどの場の役目もはたしていた。また、多くのグローバル戦略委員会のメンバーがブースでの対応のサポートをしてくれた。事務局では参加費等の事務方の質問には答えられるが、GSCのメンバーであれば研究の話で盛り上がることや研究に関する質問に答えることができ、大変助かった。まだまだではあるが、JpGUを知っているという人が少しずつ増えてきたように感じる。また、AGUとジョイントと言われると興味を持つ人も多かった。学生に関しては例年同様、旅費補助に関する質問が多かった。立ち寄ってくれた参加者層としてはインド、中国（ただしアメリカに留学中の学生）、台湾が多かった。また、他の出展者との情報交換、またJpGUへの出展案内を行った。

【ブース担当：事務局 白井佳代子・井出幸子】

2) PEPS カウンター

【出展内容】

- ・連合ジャーナル Progress in Earth and Planetary Science(PEPS) の 紹介および投稿の呼びかけ
- ・投稿サイト、投稿方法などの案内

【出展結果・来場者の傾向】

オープンアクセス・ジャーナル PEPS の認知度を高め、読者を増やし、投稿を促すための宣伝活動を行った。

従来通り、PEPS のインパクト・ファクター (IF)値についての問い合わせは最初の IF を紹介するパンフレットが説明の際に非常に役立った。今回は、川幡先生、ウォリス先生をはじめ連合関係の先生方が PEPS のカウンター在席される事も多く、大変助かった。

配布物：パンフレット、ノベルティ（ボールペン 400 個、ステッカー100 枚）

※地球儀、3 色ボールペンなどが特に好評であった。

3) EPS カウンター

ご担当の佐々木晶先生が毎日来てくださり、EPS の広報活動を行ってくれた。

また、JpGU の姉妹紙として、他の先生方も積極的に対応くださり、とてもよかったと思う。

配布物：パンフレット、ノベルティ（ポストイット 100 個、クリアファイル 100 枚、トートバッグ 50 枚）

※ポストイットおよびクリアファイルは 2 日目で終了した

3) 日本学術振興会(JSPS)カウンター

【出展内容】

・日本学術振興会国際交流事業（特に外国人招へい研究者）の宣伝紹介

＜PR 用配布物＞

例年通り、全体として絶え間なくブースへの来訪者があった。奥村晃史理事、安成哲平理事などが積極的に対応くださった。

具体的な質問には後ほど JSPS SF より直接連絡してもらうこととした。

3. 会期中のイベント等

1. U-23A: Great Debate “How to support and develop the modern digital research ecosystem to maximize benefits of science for society and the research community”

Date & Time: Dec 11 TUE 1:40-3:40pm

Co-convenor: Kazuaki Hori

Moderator: Marcia McNutt (US National Academy of Sciences, President)

Panelist: Yasuhiro Murayama, Maria Zuber (MIT), Maria Uhle (NSF), Alberto Montanari (EGU)

今年は 40 人程度は入り、floor からたくさんの質問がでて、盛況だった。

2. AGU Fall Meeting 2019 のブース予約

Date & Time: Dec 11 TUE 2:30pm

#1120 2 ブースを予約 JAMSTEC 関連の 4 つのアイランドブース(#1122-24)の向かい側

ERI と JAXA も近くを予約し、All Japan にしたかったが、予約日が次の日だったので近くを予約することはできなかった。



3. Honors Ceremony

Date & Time: Dec 12 WED 6:00-8:00pm

Place: Ball Room

川幡会長が Taira Prize をお渡しした (Recipient: Brandon Dugan)

日本人の fellow 受賞者は以下の通り

Tomo Katsura / Kimitaka Kawamura / Rumi Nakamura / Naohiro Yoshida

また 深尾先生が Inge Lehmann Medal を受賞し、受賞スピーチをされた

4. EGU との MOU 更新についての話し合い

Date & Time: Dec 13 THU 10:00am @ EGU Booth

Attendees:

JpGU: Simon Wallis / Kiyoshi Suyehiro / Kayoko Shirai

EGU: Phillippe Courtial

5. DFG との話し合い

Date & Time: Dec 13 THU 11:00am @Research in Germany Booth

Attendees:

JpGU: Fumio Inagaki / Kiyoshi Suyehiro / Kayoko Shirai

DFG: Annina Lottermann (in charge of International Research Marketing at International Affairs)

顔合わせのみ 同日夕方 Washington Plaza Hotel にて DFG Lecture があったので
稲垣先生がご出席くださることになった。

6. American Geosciences Institute との話し合い

Date & Time: Dec 13 THU 12:00 @JpGU Booth

Attendees:

JpGU: Kiyoshi Suyehiro / Kayoko Shirai / (Fumio Inagaki) / (Yukihiro Takahashi)

AGI: Ed Robeck / Adam Blankenbicker

今後についての話し合い。

2019 年度も熊野先生（静岡大学）を中心に実行委員会で開催予定。

SHARE IN DEPTH PUBLISHING



The world debates open-access mandates

Tania Rabesandratana*
 + See all authors and affiliations

Science 04 Jan 2019:
 Vol. 363, Issue 6422, pp. 11-12
 DOI: 10.1126/science.363.6422.11

Article Figures & Data Info & Metrics eLetters PDF

How far will Plan S spread?

Since the September 2018 launch of the Europe-backed program to mandate immediate open access (OA) to scientific literature, 16 funders in 13 countries have signed on. That's still far shy of Plan S's ambition: to convince the world's major research funders to require immediate OA to all

published papers stemming from their grants. Whether it will reach that goal depends in part on details that remain to be settled, including a cap on the author charges that funders will pay for OA publication (Science, 30 November 2018, p. 983). But the plan has gained momentum: In December 2018, China stunned many by expressing strong support for Plan S (Science, 14 December 2018, p. 1218). This month, a national funding agency in Africa is expected to join, possibly followed by a second U.S. funder. Others around the world are considering whether to sign on.

Plan S, scheduled to take effect on 1 January 2020, has drawn support from many scientists, who welcome a shake-up of a publishing system that can generate large profits while keeping taxpayer-funded research results behind paywalls. But publishers (including AAAS, which publishes Science) are concerned, and some scientists worry that Plan S could restrict their choices.

If Plan S fails to grow, it could remain a divisive mandate that applies to only a small percentage of the world's scientific papers. (Delta Think, a consulting company in Philadelphia, Pennsylvania, estimates that the first 15 funders to back Plan S accounted for 3.5% of the global research articles in 2017.) To transform publishing, the plan needs global buy-in. The more funders join, the more articles will be published in OA journals that comply with its requirements, pushing publishers to flip their journals from paywall-protected subscriptions to OA, says librarian Jeffrey MacKie-Mason, the chief digital scholarship officer at the University of California, Berkeley.

Robert-Jan Smits, the European Commission's OA envoy in Brussels, who is one of the architects of Plan S, says publishers have stalled by emphasizing the need for broad participation. "The big publishers told me: 'Listen, we can only flip our journals [to OA] if this is signed by everyone. So first go on a trip around the world and come back in 20 years. Then we can talk again,'" Smits recalls. "Some people try to do anything to keep the status quo."

OA mandates are nothing new: In Europe, 74 research funders require that papers be made free at some point, up from 12 in 2005, according to the Registry of Open Access Repository Mandates and Policies. But existing policies typically allow a delay of 6 or 12 months after initial publication, during which papers can remain behind a publisher paywall.



Open in new tab

ILLUSTRATION: DAVIDE BONAZZI/SALZMAN ART



Science

Vol 363, Issue 6422
 04 January 2019

[Table of Contents](#)
[Print Table of Contents](#)
[Advertising \(PDF\)](#)
[Classified \(PDF\)](#)
[Masthead \(PDF\)](#)

ARTICLE TOOLS

- Email
- Print
- Alerts
- Citation tools
- Download Powerpoint
- Save to my folders
- Request Permissions
- Share

Advertisement

RELATED INFORMATION

- PODCAST Will a radical open-access proposal catch on, and quantifying the most deadly period of the Holocaust

SIMILAR ARTICLES IN:

- PubMed
- Google Scholar

Advertiser

Advertisement

Plan S requires immediate OA; it also insists that authors retain copyright and that hybrid journals, which charge subscriptions but also offer a paid OA option, sign “transformative agreements” to switch to fully OA.

Some European funders think Plan S goes too far. “We and many German [organizations] think that we should not be as prescriptive as Plan S is,” says Wilhelm Krull, secretary general of the Volkswagen Foundation, a private research funder in Hannover, Germany. The country is Europe’s top producer of scientific papers, ahead of the United Kingdom and France, whose main funding agencies have signed on to Plan S. Germany’s biggest federal funding agency, DFG, said it supports Plan S’s goals but prefers to let researchers drive the change. Other funders, including the Estonian Research Council, say the timeline is too tight, and they will reconsider joining when Plan S’s impact is clearer.

Other European funders are weighing pros and cons. Spain’s science ministry says it is analyzing the potential repercussions of Plan S on the country’s science and finances, and on researchers’ careers. FNRS, the fund for scientific research in Belgium’s Wallonia-Brussels region, is waiting for Plan S to announce its cap on article-processing charges (APCs), the fees for publishing in OA journals, which the coalition’s funders have pledged to pay. “We’re not ready to commit if the costs are too high,” says Véronique Halloin, secretary-general of FNRS, whose existing OA mandate caps APC reimbursement at €500—which Halloin admits is on the low side.

Many await the European Commission’s policy: Although its grants represent a small percentage of research funding in Europe, its OA rules can influence national mandates. The commission’s research chief, Carlos Moedas, supports Plan S, and its 7-year funding program Horizon Europe, which will begin in 2021, contains general statements of support for OA. Plan S’s rules will go into the program’s model contract for grants, Smits says.

Smits has found unexpected support from China, which now produces more scientific papers than any other country. Last month, China’s largest government research funder and two national science libraries issued strong statements backing Plan S’s goals. “China needs to contribute to international open access [and] open its research results to its own people,” says Zhang Xiaolin of ShanghaiTech University in China, who chairs the Strategic Planning Committee of the Chinese National Science and Technology Library. Even if Chinese organizations do not join Plan S formally, similar OA policies in China would have a “huge, perhaps decisive impact on the publishing industry,” MacKie-Mason says.

For now, North America is not following suit. The Bill & Melinda Gates Foundation was the first Plan S participant outside Europe, and another private funder may follow. But U.S. federal agencies are sticking to policies developed after a 2013 White House order to make peer-reviewed papers on work they funded freely available within 12 months of publication (Science, 10 April 2015, p. 167). “We don’t anticipate making any changes to our model,” said Brian Hitson of the U.S. Department of Energy in Oak Ridge, Tennessee, who directs that agency’s public access policy.

Nor are the three main federal research funders in Canada ready to change their joint 2015 OA policy. Plan S is “a bold and aggressive approach, which is why we want to make sure we’ve done our homework to ensure it would have the



[Open in new tab](#)

CREDITS: (GRAPHIC) N. DESAI/SCIENCE; (DATA) NATIONAL SCIENCE BOARD, SCIENCE & ENGINEERING INDICATORS 2018

Related Jobs

Consultant Statistician-Data Standards

Lilly
Indiana

Assistant Professor in Epidemiology

Miami University
Miami University, Oxford, Ohio

Chair and Professor Department of Pharmacology

Case Western Reserve University Department of Pharmacology
New York City, New York (US)

[MORE JOBS ►](#)

NAVIGATE THIS ARTICLE

- [Article](#)
- [Figures & Data](#)
- [Info & Metrics](#)
- [eLetters](#)
- [PDF](#)

NAVIGATE THIS ARTICLE

- [Article](#)
- [Figures & Data](#)
- [Info & Metrics](#)
- [eLetters](#)
- [PDF](#)

best effect on Canadian science," says Kevin Fitzgibbons, executive director of corporate planning and policy at Canada's Natural Sciences and Engineering Research Council in Ottawa.

Outside Europe and North America, funders gave Science mixed responses about Plan S. India, the third biggest producer of scientific papers in the world, will "very likely" join Plan S, says Krishnaswamy VijayRaghavan in New Delhi, principal scientific adviser to India's government. But the Russian Science Foundation is not planning to join. South Africa's National Research Foundation says it "supports Plan S in principle," but wants to consult stakeholders before signing on. Jun Adachi of the National Institute of Informatics in Tokyo, an adviser to the Japan Alliance of University Library Consortia for E-Resources, says that despite interest from funders and libraries, OA has yet to gain much traction in his country.

South America has a strong tradition of OA repositories and fee-free publishing, often with government subsidies. Bianca Amaro, president of LA Referencia, a Santiago-based Latin American network of repositories, says Plan S takes a more "systemic view" than previous policies, and she values its pledge to monitor APCs and their impact—a worry for lower-income countries. "We'll see how Europe handles this," she says.

Of course, MacKie-Mason says, not every funding agency will agree that Plan S is the best way to universal OA. "But some will agree it's good enough and perhaps our best chance to transform the publishing industry soon," he says. It comes in the wake of often incremental OA initiatives in the past 15 years, and some disagreement about the best route to OA.

"In the OA movement, it seems to a lot of people that you have to choose a road: green or gold or diamond," says Colleen Campbell, director of the OA2020 initiative at the Max Planck Digital Library in Munich, Germany, referring to various styles of OA. "Publishers are sitting back laughing at us while we argue about different shades" instead of focusing on a shared goal of complete, immediate OA. Because of its bold, stringent requirements, she and others think Plan S can galvanize advocates to align their efforts to shake up the publishing system.

The Plan S team predicts steady growth in the coming months. Funders will discuss Plan S in São Paulo, Brazil, at the May meeting of the Global Research Council, an informal group of funding agencies. Although Smits will leave the European Commission in March, the Plan S coalition is seeking a replacement who can keep the momentum going.

"The combined weight of Europe and China is probably enough to move the system," says astrophysicist Luke Drury, of the Dublin Institute for Advanced Studies and the lead author of a cautiously supportive response to Plan S by All European Academies, a federation of European academies of sciences and humanities.

If Plan S does succeed in bringing about a fairer publishing system, he says, a transition to worldwide OA is sure to follow. "Somebody has to take the lead, and I'm pleased that it looks like it's coming from Europe."

✱ With reporting by Jeffrey Brainard, Sanjay Kumar, Dennis Normile, and Brian Owens.

Science

4 January 2019

Vol 363, Issue 6422



FEATURE

Biology in the bank

HISTORY OF SCIENCE

A military alliance goes green

CROWD DYNAMICS

OCEAN GOVERNANCE

From voluntary commitments to ocean sustainability

AREAS TO WATCH

What's coming up in 2019

WORKING LIFE

Subscribe Today

Receive a year subscription to Science plus access to exclusive AAAS member resources, opportunities, and benefits.

First Name

Last Name

Email Address

Get Our Newsletters

Receive emails from Science. See full list

- ☒ Science Table of Contents
- ☒ Science Daily News
- ☒ Science News This Week
- ☒ Science Editor's Choice
- ☒ First Release Notification
- ☒ Science Careers Job Seeker

Country *

Email address *

☐ I agree to receive emails from

共催・協賛・後援等一覧

申請日	承認日	種別	経費負担	申請対象	行事名称	主催者名	開催期間	開催場所
10月19日	10月26日	協賛	あり	大気水圏科学セクション	陸水物理研究会2018年度石垣大会	陸水物理研究会	2018年 11月 16日(金)～ 2018年 11月 18日(日)	大濱信泉記念館 多目的ホール(沖縄県石垣市)
10月29日	11月7日	後援	無し	連合	地学オリンピック日本委員会による地球科学講演会「地球をぶらり」	NPO法人地学オリンピック日本委員会	2018年11月24日(土)	城西大学 東京紀尾井町キャンパス3号棟
11月6日	11月16日	協賛	無し	連合	日本化学連合シンポジウム 「大学の未来をどう描くか:国立大学法人経営統合等」	日本化学連合	2018年12月26日(水)	化学会館7階ホール
11月14日	11月21日	協賛	無し	連合	2018年度量子ビームサイエンスフェスタ	KEK物質構造科学研究所、J-PARCセンター	2019年3月12日(火)～ 2019年3月13日(水)	つくば国際会議場(エポカルつくば)
11月28日	12月7日	後援	無し	連合	日本学術会議公開シンポジウム 「繰り返される災害—少子高齢化の進む地域で生き抜くということ—」	地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 土木工学・建築学委員会IRDR分科会	2019年4月5日(金曜日) 13:00—17:00	日本学術会議講堂
12月20日		協賛	無し	連合	第24回計算工学講演会	一般社団法人日本計算工学会	2019年5月29日(水)～31日(金)	ソニックシティー

項目	対象者/担当者	期間
セッション提案	セッション開催希望者・学協会プログラム委員	9/3(月)～10/12(金)17:00
学協会セッション提出	学協会プログラム委員	10/15(月)～10/22(月)17:00
セッション採択会議	プログラム編成会議メンバー	10/23(火)
セクション帯案作成	セクションプログラム委員	10/25(木)～11/8(木)
プログラム編成会議	プログラム編成会議メンバー	11/13(火)
開催セッション一般公開	プログラム委員会	11/21(水)
コマ割・仮コマ数公開(コンビーナ)	プログラム委員会	11/21(水)
コマ割公開(一般)	プログラム委員会	12/3(月)
投稿	発表希望者	1/8(火)～2/19(火)17:00 ※早期締切2/4(月)23:59
(参加登録)	大会参加者	1/8(火)～受付開始 ※早期締切5/8(水)
セッション編成(採択・移動)	コンビーナ・プログラム委員会	2/20(水)～2/25(月)17:00
セッション編成(コマ数確定)	プログラム委員会	2/27(水)
セッション編成(発表順作成)	コンビーナ	2/28(木)～3/7(木)17:00
採択通知	プログラム委員会	3/13(水)
プログラム公開	プログラム委員会	3/14(木)
予稿PDF公開	プログラム委員会	5/17(金)

■ 2. 会員システムの URL が変更になりました

2019 年 1 月 8 日より、会員システムにログインするための URL が変更になりました。ブックマーク等にご登録いただいている場合には修正をお願いいたします。

<https://www.jpгу-member.org/jpgu/ja/>

■ 3. 2019 年大会に関するお知らせ

(1) 予稿投稿・参加登録が始まりました！

【投稿 最終締切 2 月 19 日(火)17:00】

早期締切：2 月 4 日(月) 23:59 (早期投稿料 3,240 円(税込))

最終締切：2 月 19 日(火) 17:00 (通常投稿料 4,320 円(税込))

※投稿料の早期割引は、早期締切までに決済を完了された場合のみに適用されます。早期締切までに投稿が完了していても決済がお済みでない場合には、自動的に通常投稿料となります。

投稿は会員ログイン画面の「投稿」ボタンから行ってください。

<https://www.member-jpgu.org/jpgu/ja/>

投稿についての詳細は大会ウェブページをご参照ください。

http://www.jpгу.org/meeting_2019/presentation.php

たくさんのご投稿をお待ちしております。

【参加登録 早期締切 5 月 8 日(水)23:59】

会員ログイン画面の「連合大会」→「大会参加申込」ボタンからお申込みください。

<https://www.member-jpgu.org/jpgu/ja/>

参加登録料及び詳細は大会ウェブページをご参照ください。

http://www.jpгу.org/meeting_2019/information.php#information_menu06_h2_03

※早期参加登録締切日時までは、参加登録のキャンセルが可能です。その際ご決済いただいた参加登録料は、手数料実費をキャンセル料としていただいたうえで返金いたします。

(2) 2019 年大会からの変更点

■ シニア正会員の参加費が有料になります。

http://www.jpгу.org/meeting_2019/information.php#zaimu

■ 大学院生の在籍(学割)確認に締め切りを設けます(5/8 まで)。

http://www.jpгу.org/meeting_2019/news/0108_2.html

■ 参加登録せずに来場される方及び e チケットをお忘れの方に対する一部サービスを有料化いたします。

http://www.jpгу.оrg/meeting_2019/news/0108.html

※入場用 e チケット（バーコード）をご持参もしくはご提示いただける方への変更は一切ありません。

■ 新しい参加区分として「SNS ポスター参加」を設けます。

http://www.jpгу.оrg/meeting_2019/news/1210.html

(3) ユニオン、パブリック、ジョイント、学協会セッションのご紹介

【ユニオンセッション】

http://www.jpгу.оrg/meeting_2019/program.php#program_menu09

U-01 [E] JpGU-AGU-EGU Great Debate: Impact of research assessment and going forward

U-02 [E] 地球惑星科学分野のダイバーシティ推進状況：国際的な視点から

U-03 [J] 地球惑星科学における学術出版の将来

U-04 [J] 地球惑星科学における高速過程を捉える

U-05 [J] 地球惑星科学の進むべき道 9：大型研究計画とマスタープラン 2020

U-06 [J] 100 周年を迎える IUGG への日本の貢献

U-07 [J] 連合の環境・災害への対応—予期せぬ地質災害の衝撃に備える—

U-08 [J] 日本地球惑星科学連合の将来に向けた大会参加者からの意見と提言

※ユニオンセッションには、招待講演のみで構成され、一般投稿を受け付けていないセッションがありますので、投稿の際にはご注意ください。

【パブリックセッション】

http://www.jpгу.оrg/meeting_2019/program.php#program_menu10

パブリックセッションは5月26日(日)に開催されます。一般の方向けの内容で、どなたでも無料で参加できます。パブリックセッションは一部を除き、一般からの投稿は受け付けておりません。

0-01 [J] ブラタモリの探究-「つたわる科学」のつくりかた

0-02 [J] 地球・惑星科学トップセミナー

0-03 [J] 高校生によるポスター発表

0-04 [J] 社会とJpGUとの相互交流によって創る新しい地球惑星科学教育

0-05 [J] 日本人がやりがちなおかしい英語

0-06 [J] 激甚化する風水害にどう対応するか

0-07 [J] キッチン地球科学：手を動かす実験で頭脳を刺激しよう！

0-08 [J] ジオパークで地球活動をイメージする —ジオ多様性の大切さを知ろう—

【ジョイントセッション】

AGU, AOGS, EGU とのジョイントセッションはこちらです。

http://www.jpгу.оrg/meeting_2019/program.php#program_menu11

【学協会セッション】

http://www.jpгу.оrg/meeting_2019/program.php#program_menu12

(4) 招待講演予定者のご紹介

現時点での招待講演「予定者」のリストをこちらで公開しています。

<https://www.member-jpгу.оrg/proposal/session/invited/author/ja/>

(招待講演者の確定リストは投稿終了後に公開されます)

ご投稿・ご参加の参考にしてください。

(5) 学生優秀発表賞 (OSPA) エントリースタート

- ・ エントリー受付中

2018 年大会よりエントリーの方法とエントリー資格が変更となりました。
エントリーをご希望の方はご注意ください。

エントリー受付期間：2019 年 1 月 8 日(水)～2 月 19 日(火) 17:00

エントリー方法：投稿終了後、会員システムよりエントリーしてください

募集要項：

http://www.jpgu.org/meeting_2019/rule/ospa.html

- ・ 審査員募集

審査にご協力いただける方は、投稿時に「審査員を希望する」というボックスにチェックをつけてください。たくさんの方のご協力をお待ちしています。

(6) 学生旅費補助

学生を対象とした旅費の助成を行います。

申請資格

- ・ 申請時点で学生（高校生から大学院生）であること
- ・ 第一著者かつ発表者であること（ポスター可）

申請者の多様性と旅費補助の必要性を考慮して助成対象者の選定を行います。

申請受付開始 2019 年 1 月 8 日(火)

申請受付締切 2019 年 2 月 21 日(木)

結果の通知 2019 年 3 月 13 日(水)

* 旅費の助成確定を待っての投稿はできません。

詳細・申込方法は下記大会公式ホームページをご確認ください。

http://www.jpgu.org/meeting_2019/for_student.php

(7) 展示出展者募集

本大会を情報発信や新たな交流の場として活用しませんか？

日本最大の地球惑星科学関連学会の大会である連合大会では、年々各種ブースの出展数が増え、参加者だけでなく出展者の皆さまからもご好評をいただいています。また、大会事務局では、展示ブースをこれまで以上に盛り上げるための企画準備を進めています。

2019 年大会では、2018 年大会をさらに上回るブース数をご用意しましたが、既に半数のお申し込みがありました。ブース位置は先着順となっておりますので、早目のお申込みをお願いいたします。

詳細・申込方法は下記大会公式ホームページをご確認ください。

http://www.jpgu.org/meeting_2019/exhibitors.php

(8) 各種募集時期について

[アルバイト] 3 月下旬頃を予定しています。

[会合] 3 月下旬頃を予定しています。

(9) 今後の予定

2月4日(月)23:59 早期投稿締切
2月19日(火)17:00 投稿最終締切
3月13日(水) 採択通知
3月14日(木) プログラム公開
5月8日(水)23:59 早期参加登録締切
5月17日(金) 予稿PDF公開

■ 4. 法律の改正等に伴う受付運営の変更について【重要！】

この変更は、事前参加登録をお済ませいただき、eチケット（バーコード）をご持参（もしくはご提示）いただいている参加者の皆様への変更ではございません。今まで通りご入場いただけます。

法律改正への対応とセキュリティ強化のため、2019年大会で当日会場にて参加登録等をされる方には、多大なご不便をおかけすることになります。ぜひ事前に参加登録を済まし、会場にはeチケット（バーコード）を持参いただくようお願いいたします。

- ・クレジットカード情報のネットへの漏洩を防ぐための法律（改正割賦販売法）により、現地に参加登録用のPC及びスタッフを配置できません。
- ・当日会場においても、ご自身のPCあるいはモバイル端末で、参加登録及びeチケットの発行をお願いします。
- ・ご自身で参加登録及びeチケットの発行ができない場合には、有料（五千円）にて作業を代行する窓口を設けていますが、当日は大変混み合うことが予想されます。

参加者の皆様には、無用な経費と時間を費やされないように、ぜひ大会来場前の参加登録とeチケットのご用意をお願いします。

詳細：http://www.jpгу.оrg/meeting_2019/news/0108.html

参照：経済産業省「割賦販売法の一部を改正する法律について」（PDF）
<http://www.meti.go.jp/policy/economy/consumer/credit/kappuhannbaihounoichibuwokaiseisuruhouritsu.pdf>

Japan Geoscience Union Meeting 2019

2018年12月21日：ソーシャルメディア(SNS)を利用したポスター発表の募集

新しい参加形態「SNSポスター」を2019年大会より試験的に導入します

SNSポスターは、発展途上国の居住者を対象として、渡航費をかけずにJpGUにて発表していただくための参加方法です。
発表用のポスターは、JpGU事務局が、SNSポスター参加者からお預かりしたデータを紙に出力して会場に掲示します。
SNSポスター参加者は、会場へ来場せず、参加者居住地と大会会場をインターネットで接続することでディスカッションを行います。
希望する発表者には「インターネットを通じた発表（参加）」と明記した上で発表証明書を発行します。
学生優秀発表賞へのエントリーはできません。

対象者：

発展途上国居住者かつ正会員IDを持ち、投稿を本人がその正会員IDで行った人
※学部生は準会員のため、SNSポスター参加の対象とはなりません
発展途上国定義は [World Bankに記載](#)のLow incomeおよびLower-middle incomeの国とします。
なお、居住の判別は原則所属機関所在地で行います。

参加条件：

- ・ポスターデータをJpGU事務局まで電子的に送付できること。ポスターデータのファイル形式はPDFに限る。
- ・JpGU事務局と電子メールでのやり取りが可能なこと。
- ・コンピーナがSNSポスターの受け入れを承認しているセッションに投稿すること
- ・投稿時には必ず発表形式を「ポスター」とすること
- ・採択された発表日時にJpGU会場とインターネットで接続できる環境を用意できること
- ・期日までに必要な手続きおよび支払いが完了していること

発表方法：

ポスターのみとし、SNSポスターには目印をつけます。
SNS（相互コミュニケーションツール）を利用し、大会会場とディスカッションを行ってください。
各ポスター前にタブレットを設置しますので、skypeによる対面会話が可能です。
（SNS例 JpGUアプリのcomment機能が利用できます。その他お好きなアプリケーションをご活用ください。）

参加料：

[投稿料 3240円] + [身分に応じた参加費(一日券で可)] + [手数料 16000円]
※たとえば、大学院生の場合 3240円+(早期一日券)7560円+16000円=26800円 となります。
手数料にはポスター印刷代を含みます。
お支払はクレジットカードのみです。クレジットカードでのお支払いに問題がある場合は[お支払について](#)のページをご参照ください。

【手続きの流れ】

- (1) SNSポスター参加希望者は、投稿期間中の定められた期日（2019年2月4日）までに専用フォームにて必要事項を記入の上、申請をしてください。
- (2) 申請者は申請締切日までに投稿料・参加費の支払いもお済ませください。
- (3) 申請締切後、必要条件を満たしている方に、事務局から手数料(16000円)を請求します。
- (4) 全ての決済が完了したことを確認できたら、事務局からSNSポスター応募者をコンピーナに通知します。
- (5) 各セッションコンピーナは、一般投稿と同様に採択・不採択を決定します。

【参加の流れ】

- (1) 採択が確定しましたら、期日までにポスターデータを用意してください。
- (2) ポスターデータをJpGU事務局までPDFでお送りください。
- (3) JpGU会場とインターネットで接続できる環境をご用意ください。
- (4) 採択されたコアタイムの時間には、JpGU会場とインターネットを通じてコンタクトがとれるよう、待機をしてください。

注意：

- ・発表終了後のポスターは一般の印刷物と同様の方法で破棄します。
- ポスターに個人情報等が記載されている場合であっても個別の配慮はできかねますので、掲載される際にはご了承の上でお願いいたします。
- ・学生旅費補助とSNSポスターの併願は禁止です。両方に申し込まれた場合には、SNSポスターへのエントリーは自動的に無効となります。

発表のキャンセルについて：

投稿最終締切(2/19 17:00)までは、投稿画面からご自身で投稿を取り下げることができます。
その場合、投稿の記録は残らず、予稿も公開されません。
なお、決済済みの投稿料は取下げの理由に因らず返金できません。
投稿締切後は、投稿そのものを取り下げることはできません。原則として投稿情報はプログラムに掲載されます。
発表をキャンセル（採択された発表日時にディスカッションをすることができない）する場合には、指定の方法でコンピーナまでお知らせください。

Japan Geoscience Union Meeting 2019

2019年1月8日：学割承認締切について

大学院生の方で、学割料金での参加をご希望される方は、5月8日23:59までに、指導教員による在籍承認を受けてください。
5月9日の時点で指導教員による承認が得られていない場合には、学割料金での参加はできません。

大学院生が大会に学割料金で参加するためには、指導教員による在籍承認が必要です。

在籍承認は、毎年度行っていた必要があります。

新規ID作成時及び毎年4月1日以降の初回ログイン時に、会員画面上から指導教員の情報を登録してください。

指導教員の元へ、在籍確認メールが配信されます。

指導教員が在籍確認メールにあるURLから承認ボタンを押した時点で申請者の学生身分が確認されます。

参加登録手続きを行い、学割料金にて参加登録料を決済していただいても、5月9日の時点で指導教員の承認が得られていない場合には、当日入場していただくことができません。

ご入場いただくためには、大会会場にて、一般料金との差額をお支払いいただきます。

大会会場にて、学生証の提示や指導教員の同伴などで学生身分を証明していただいても、学割料金での入場はできません。

指導教員に在籍確認メールが配信されても、承認していただくまでには時間が必要となります。

「在籍確認メールを送ったが、指導教員が承認してくれなかった」という理由では、学割を適用できません。

指導教員には余裕を持って承認を依頼してください。

在籍承認と参加登録は別の手続きです。在籍承認が得られる前に参加登録を行うことも、参加登録の前に在籍承認だけを先に行っておくこともできます。

本件について、ご不明な点、お困りの点がございましたら[お問合せフォーム](#)からお知らせください。

各種締切後のご連絡につきましては一切承ることができません。

必ず締切前までにご相談ください。

Japan Geoscience Union Meeting 2019

2019年1月8日：法律の改正等に伴う受付運営の変更について

事前参加登録をお済ませいただき、eチケット（バーコード）をご持参（もしくはご提示）いただいている参加者の皆様への変更はございません。
今まで通りご入場いただけます。

▼ 以下は、大会会場に参加登録をしないでご来場される方、参加登録がお済みであってもeチケット(バーコード)を持たずにご来場される方への運営変更のご案内です。

法律改正への対応とセキュリティ強化のため、2019年大会で当日会場にて参加登録等をされる方には、多大なご不便をおかけすることになります。
ぜひ事前に参加登録を済まし、会場にはeチケット（バーコード）を持参いただくようにお願いします。

クレジットカード情報の漏洩と不正使用の被害を防ぐために、2018年6月1日から施行された改正割賦販売法により、JpGUが大会来場者の皆様にご用意したPC上で、参加者のクレジットカード情報を、「保存」、「処理」、「通過」させることができなくなりました。

また、2018年9月3日のプライバシーポリシーの改訂に伴い、会員の皆様の個人情報のお取り扱いにつきましても、見直しを行っております。

参照：経済産業省「割賦販売法の一部を改正する法律について」(PDF)

そのためJpGUは、2019年大会より、大会会場に、参加登録作業を行うPCと、作業のアシスタントを行うスタッフをご用意することができません。

ご来場いただきましても、ご自分のPCあるいは携帯などのモバイル端末で、事前手続きと同様の作業をご自身で行っていただく必要があります。

大会会場ではこの作業のためのスペース(机、電源およびネットワーク回線)は用意しますが、当日はサーバー、回線が混み合うことから、手続きに時間がかかります。

また、JpGUのスタッフが、皆様のID・PWをお知らせすることもできません。大会会場であっても、ご自身でサーバに問合せをかけていただきます。

皆様には是非事前に参加登録を済ませ、e-チケットを印刷または表示できるようにして来場いただくようお願いいたします。

なお事前参加登録をされておらず、さらにPC等を会場に持参されていない方、あるいはご自身で手続きができない方のために、有料にてeチケット発行代行サービスを受け付ける窓口を設けます。

eチケット発行代行サービスでは、作業内容申込書にご記入いただき、写真付き身分証で本人確認を行った上で作業を代行いたします。

代行作業は皆様の会員情報の閲覧権限を持つスタッフが、カード情報の非保持化に対応できる専用の入力端末を使用することで、JpGUのプライバシーポリシー及び改正割賦販売法を順守しますが、お一人あたりの作業にかなりの時間を要することとなります。

また、上記のように、専任スタッフ及び専用端末の用意をする必要があるため、大会運営の受益者負担の原則により、eチケット発行代行サービスには参加登録料とは別に代行事務手数料(5000円)を申し受けることとします。

なお代行事務手数料を含む支払いは全て原則としてクレジット決済で行うことをご了承ください。

参加者の皆様には、無用な経費と時間を費やされないように、是非大会来場前の参加登録とeチケットのご用意をお願いします。

○2019 年 1 月 8 日に非常時の対応について下記のアナウンス文章をウェブサイトで公開した。

日本地球惑星科学連合(JpGU)の 2019 年大会に関する非常時対応について

日本地球惑星科学連合 2019 年大会（会場：幕張メッセ）において、大会参加者に危険が及ぶ恐れが生じた場合
*は、大会運営委員会及び理事会は、大会の中止／延期を判断／決定し、皆様に周知します。大会の中止等の告知は、JpGU ホームページへの掲載、及びすべての登録者への電子メールにて行います。なお大会の開催中止等
がなされた場合、決定の時期、理由等によっては、投稿料、参加費などの返却はできないことがあることをご了承下さい。

*大会実施地域に特別警報または暴風警報等が発表された場合、大規模災害の発生などにより大会参加者に危険が及ぶ恐れがある場合、多くの参加者が大会会場に来られない事態が生じた場合、さらに大会時に事故などが起こった場合等。

=====

Japan Geoscience Union Meeting 2019 – Crisis Management Procedure.

If there is a natural disaster or other event that presents a danger to meeting participants then the JpGU Meeting Organizing Committee and/or the JpGU Board of Directors may decide to change the dates of the meeting or to extend or cancel the meeting.

In the event that the meeting is cancelled or rescheduled this will be announced on the JpGU homepage and all registered participants will be informed by email. Should the meeting be cancelled we would like you to understand that there may be some circumstances when it will be impossible to refund abstract submission fees and meeting registration fees.

Events which might affect the meeting include (i) Emergency Warnings (extreme natural hazard) issued for the region where the meeting is held; (ii) a natural disaster that presents a danger to meeting participants; (iii) any event that prevents large numbers of meeting participants from attending the meeting; and (iv) a large accident or other emergency during the time when the meeting is being held.

Please check the URL /https://www.jma.go.jp/jma/en/Emergency_Warning/ew_index.html for your reference.

顕彰委員会活動報告

・連合フェローの人数

顕彰年度	人数（名）
2014 年度	43
2015 年度	13
2016 年度	14
2017 年度	15
2018 年度	12
合計	97

1. PEPS 論文投稿・出版状況(2018/12/31)現在

2018 年は IF 取得の効果もあり、投稿数は増加し、非連合会員や海外からの投稿も増加傾向にあった。
また、出版論文数は 2017 年から倍増し、89 編を出版した。

1).論文投稿数(Total:431)

～2015 年： 146 (Review-42, Research-95, Methodology-4, Editorial-4, Correction/Erratum-1,)

2016 年： 61 (Review-6, Research-50, Methodology/Preface/Datapaper-4, Correction/Erratum -1)

2017 年： 110 (Review-11, Research-92, Methodology/Preface/Datapaper-6, Correction/Erratum -1)

2018 年： 114 (Review-16, Research-89, Methodology/Datapaper/Preface -7, Correction/Erratum -2)

・査読中 : 44 (Review- 8, Research- 34, Methodology/Datapaper- 2)

・出版校正中: 15 (Review- 2, Research- 13)

2).出版論文数(Total:244 Review 論文 21.8%)

～2015 年： 75 (Review- 22, Research - 49, Editorial- 3, Correction/Erratum- 1)

2016 年： 38 (Review- 10, Research- 22, Methodology- 1, Preface-3,Editorial- 1,Correction/Erratum-1)

2017 年： 42 (Review- 7, Research- 33, Methodology- 1,Correction/Erratum- 1)

2018 年： 89 (Review- 11, Research- 70, Methodology/Datapaper/Preface- 5, Correction/Erratum- 3)

3).Reject/withdrawn 済: 129 (30.6%)

2. SpringerNature との契約更新

出版社との契約更新が完了し、1 月 9 日より新しい論文掲載料 (APC)での投稿受付を開始した。

3. 編集長会議活動報告

12/19 に編集長会議を TV 会議にて開催し、編集上の問題点の検討・情報共有、2019 年 1 月から開始の第 3 次編集委員会の新規候補者について検討した。

また、出版社との契約更新に伴う新 APC(論文掲載料)は、1/9(水)以降の投稿論文から適用開始となる旨の報告があった。

Progress in Earth and Planetary Science 出版・投稿状況

■出版状況

(2018/12/31)

	2014				2015				2016				2017				2018				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	2	3	0	5	5	14	1	20	17	24	1	42
2. Atmospheric and hydrospheric	8.0%	4.0%	0.0%	12.0%	13.0%	10.9%	0.0%	23.9%	5.6%	2.8%	0.0%	8.3%	4.9%	7.3%	0.0%	12.2%	5.8%	16.3%	1.2%	23.3%	7.3%	10.3%	0.4%	17.9%
3. Human geosciences	2	5	0	7	2	3	0	5	2	3	0	5	1	9	0	10	2	18	1	21	9	38	1	48
4. Solid earth sciences	8.0%	20.0%	0.0%	28.0%	4.3%	6.5%	0.0%	10.9%	5.6%	8.3%	0.0%	13.9%	2.4%	22.0%	0.0%	24.4%	2.3%	20.9%	1.2%	24.4%	3.8%	16.2%	0.4%	20.5%
5. Biogeosciences	0	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	7	0	7	1	4	1	6	1	16	1	18
6. Interdisciplinary research	0.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	17.1%	0.0%	17.1%	1.2%	4.7%	1.2%	7.0%	0.4%	6.8%	0.4%	7.7%
Subtotal	2	9	0	11	4	14	0	18	3	13	3	19	2	9	0	11	3	21	0	24	14	66	3	83
Editorial/Correction	8.0%	36.0%	0.0%	44.0%	8.7%	30.4%	0.0%	39.1%	8.3%	36.1%	8.3%	52.8%	4.9%	22.0%	0.0%	26.8%	3.5%	24.4%	0.0%	27.9%	6.0%	28.2%	1.3%	35.5%
Total	1	0	0	1	1	3	0	4	0	3	0	3	0	4	0	4	0	5	0	5	2	15	0	17
Editorial/Correction	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	2.2%	6.5%	0.0%	8.7%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	9.8%	0.0%	9.8%	0.0%	5.8%	0.0%	5.8%	0.9%	6.4%	0.0%	7.3%
Total	0	1	0	1	3	3	0	6	3	4	1	5	2	1	1	4	0	8	2	10	8	14	4	26
Editorial/Correction	0.0%	4.0%	0.0%	4.0%	6.5%	6.5%	0.0%	13.0%	8.3%	2.8%	2.8%	13.9%	4.9%	2.4%	2.4%	9.8%	0.0%	9.3%	2.3%	11.6%	3.4%	6.0%	1.7%	11.1%
Subtotal	7	18	0	25	16	30	0	46	10	22	4	36	7	33	1	41	11	70	5	86	51	173	10	234
Editorial/Correction	28.0%	72.0%	0.0%	100%	34.8%	65.2%	0.0%	100%	27.8%	61.1%	11.1%	100%	17.1%	80.5%	2.4%	100%	12.8%	81.4%	5.8%	100%	21.8%	73.9%	4.3%	100%
Total	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	4
Editorial/Correction	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	6
Total				29				46				38				42				89				244

■投稿状況

(2018/12/31)

	～2014				2015				2016				2017				2018				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Preface	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	5	0	6	7	19	0	26	7	7	2	16	26	48	3	77
2. Atmospheric and hydrospheric	11.9%	13.4%	0.0%	25.4%	4.1%	10.8%	1.4%	16.2%	1.7%	8.3%	0.0%	10.0%	6.4%	17.4%	0.0%	23.9%	6.3%	6.3%	1.8%	14.3%	6.2%	11.4%	0.7%	18.2%
3. Human geosciences	5	7	0	12	3	8	0	11	1	9	0	10	1	30	1	32	1	15	1	17	11	69	2	82
4. Solid earth sciences	7.5%	10.4%	0.0%	17.9%	4.1%	10.8%	0.0%	14.9%	1.7%	15.0%	0.0%	16.7%	0.9%	27.5%	0.9%	29.4%	0.9%	13.4%	0.9%	15.2%	2.6%	16.4%	0.5%	19.4%
5. Biogeosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	0	7	0	7	0	7	0	7	1	11	1	13	2	33	1	36
6. Interdisciplinary research	1.5%	6.0%	0.0%	7.5%	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	11.7%	0.0%	11.7%	0.0%	6.4%	0.0%	6.4%	0.9%	9.8%	0.9%	11.6%	0.5%	7.8%	0.2%	8.5%
Subtotal	3	17	1	21	10	23	2	35	3	20	2	25	1	19	2	22	4	35	1	40	21	114	8	143
Editorial/Correction	4.5%	25.4%	1.5%	31.3%	13.5%	31.1%	2.7%	47.3%	5.0%	33.3%	3.3%	41.7%	0.9%	17.4%	1.8%	20.2%	3.6%	31.3%	0.9%	35.7%	5.0%	27.0%	1.9%	33.9%
Total	2	3	0	5	0	3	0	3	0	5	0	5	0	7	1	8	1	8	0	9	3	26	1	30
Editorial/Correction	3.0%	4.5%	0.0%	7.5%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	6.4%	0.9%	7.3%	0.9%	7.1%	0.0%	8.0%	0.7%	6.2%	0.2%	7.1%
Subtotal	2	5	0	7	5	4	0	9	1	4	2	7	2	10	2	14	2	13	2	17	12	36	6	54
Editorial/Correction	3.0%	7.5%	0.0%	10.4%	6.8%	5.4%	0.0%	12.2%	1.7%	6.7%	3.3%	11.7%	1.8%	9.2%	1.8%	12.8%	1.8%	11.6%	1.8%	15.2%	2.8%	8.5%	1.4%	12.8%
Subtotal	21	45	1	67	21	50	3	74	6	50	4	60	11	92	6	109	16	89	7	112	75	326	21	422
Editorial/Correction	31.3%	67.2%	1.5%	100%	28.4%	67.6%	4.1%	100%	10.0%	83.3%	6.7%	100%	10.1%	84.4%	5.5%	100%	14.3%	79.5%	6.3%	100%	17.8%	77.3%	5.0%	100%
Total	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	4
Editorial/Correction	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	5
Total				71				75				61				110				114				431

注: 2016年～2018年の総投稿数には、投稿システム内で投稿番号が付与されないErratum原稿各1件も含むため、実際の投稿受付番号よりも1件ずつ多い。18-00057はTest(Research,2A)

■編集状況

(2018/12/31)

	Review	Resarch	Methodology /Data paper /Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	51	173	10	234	10	244
Accepted including Provisionally-accepted	12.1%	41.0%	2.4%	55.5%	-	-
Under review	2	13	0	15	0	15
Rejected/Withdrawn	0.5%	3.1%	0.0%	3.6%	-	-
Under review	8	34	2	44	0	44
Rejected/Withdrawn	1.9%	8.1%	0.5%	10.4%	-	-
Rejected/Withdrawn	14	106	9	129	0	129
Rejected/Withdrawn	3.3%	25.1%	2.1%	30.6%	-	-
Total	75	326	21	422	10	432
	17.8%	77.3%	5.0%	100.0%	-	-

- ・ 日本学術会議 課題別委員会「オープンサイエンスの深化と推進に関する検討委員会」の発足

2018.12.18 第 1 回会合。役員選任と、今後の議論方向性を議論した。

喜連川委員長（国立情報学研）、引原副委員長（京大）、安達幹事（国立情報学研）、村山幹事（NICT）

（山極会長の要請と聞いている。内閣府のオープンサイエンスの議論と並行して行う。大学としてどう考えるか、が重点。）

- ・ 内閣府 統合イノベーション戦略（2018.6.15 閣議決定）

- 第2章 知の源泉

- （2）オープンサイエンスのためのデータ基盤の整備

- オープン・アンド・クローズ戦略を考慮
 - サイバー空間上での研究データの保存・管理に取り組み
 - 諸外国の研究データ基盤とも連携して巨大な「知の源泉」を構築
 - 内閣府（科技）は、国際認証基準等に基づくりポジトリの整備・運用のガイドライン及び国研におけるデータポリシーの策定を促進するためのガイドラインを 2018 年度に策定

- ・ WDS のプロジェクト: CoreTrustSeal (CTS) 始動。 <https://www.coretrustseal.org/>

- データ保存機構＝data repository の国際的信頼性認証を non-profit で立上げ。

- AGU でも基本認証として採用したい声。
 - 内閣府ではデータリポジトリ信頼性ガイドライン検討中(CTS を考慮、検討中)
 - 欧米の商業学術出版者の論文投稿ポリシーがアップデート: 論文で利用したデータを信頼のおける場所に保存すること、読者からアクセス可能とすること、を要請。(義務化でなく推奨のところもまだ多いが)。

- 日本としてのデータ置き場（リポジトリ）をどうするか。信頼性をどのあたりへもってくるか。学術会議、学協会・研究者の今後の議論も重要。

- 国際カタログ（レジストリ）登録による国際認知向上も重要か。

- re3data (<https://www.re3data.org/>)など。